

山行報告 2018'



2018年2月~2019年1月

東京朝霧山岳会

東京朝霧山岳会とは・・・

1932年江戸川区平井に、地元の青年が野外活動を中心としたサークルが当会の誕生であり、しだいに会員数も増え、登山中心の集まりとなり1934年現在の「東京朝霧山岳会」と称することになる。その後暗い戦争時代を通過し東京大空襲で、すべてのものが焼失し会も壊滅状態になるが、終戦と共に活動を開始、丹沢、谷川岳、穂高の岩場での登攀や幾多のルート開拓を行うようになる。

また1960年代より海外遠征へ会員を送り出し会員の層も充実しより困難な登攀を追求するようになる。1976・82年カラコルムに待望の会遠征を出すに至る。

★最近の活動状況・・・

近年、会の長期目標に向かっての山行に代わって個人の価値観に基づく登山形態になり他会のメンバーと自由な山行を組む人も出てきました。現在の活動は夏季、年末休暇を利用した岩稜、雪稜の登攀、有給休暇を利用してヨセミテ等でのクライミングが中心。またフリークライミングを好む会員も出てきている。集会は月2回 当会平井事務所で山行報告・計画・机上講習などを中心に行い、会報(山行報告)は年1~2回発行している。



昔々の先輩

独自の運営・・・

当会は理事(OB)会、現役会の連携による自らの会事務所があり集会場装備・書籍庫として有意義に活用している。また秋 朝霧祭と称して会員、のみならず他山岳会・家族・友人など(50名程度)を集め親睦会を深めている。

★これから・・・

春夏秋冬、季節に関係なく登攀を織り込んだ山行を重ね ヨセミテ、アルプス、ヒマラヤと6000m峰程度で未登ルートを探し短期速攻でない、ある程度の時間を掛けじっくり登る計画を実践したい。

★会事務所

東京都江戸川区平井 6-7-5 (JR 総武線 平井駅徒歩 5分)

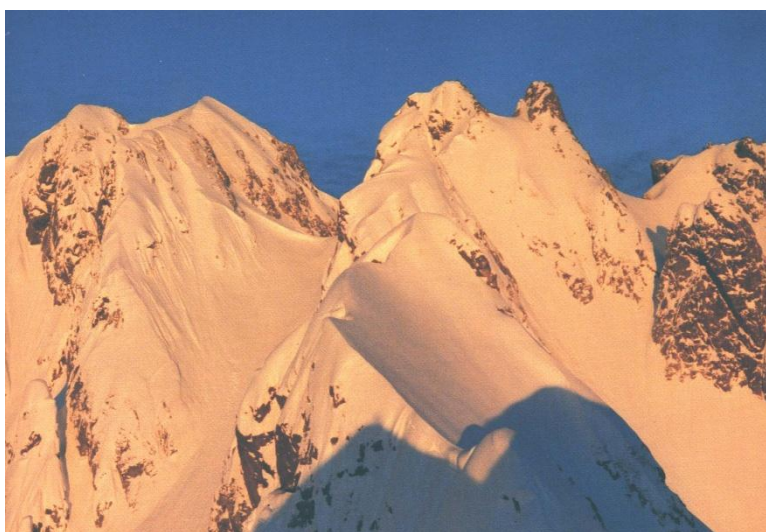
asagirisangakukai@yahoo.co.jp

(集会 毎月第2水曜日 PM 8時～) 随時会員募集



76 バインター・ブラック

東京朝霧山岳会 検索



2018年2月～2019年1月

1/27 奥多摩 日の出山 (902m)

初めての日ノ出山は地図頼りで進むが、途中間違え民家へ。林道を1時間歩き登山口、山頂へは2時間と合計3時間。雪道は滑り歩きにくい。山頂は5,6名。冬はとても眺めがよく、新宿、横浜さらに遠くも見渡せる。山頂から五日市へ向かうベテラン2人の後をついていくも道迷い。ベテランは迷った場合は元に戻るのとこのことで、登り返して正規のルートへ。麻生山で別れてお先に下山しました。体温調節やアイゼン歩きの練習になりました。つるつる温泉はまたの機会に。(黒澤)

1/28 奥武蔵 多峯山 飯能～天覧山～多峯山～飯能

今回も「奥むさし駅伝大会」開催日と重なりました。(伊藤)

2/11 日光 鳴虫山 (1103m)

日光に着き、市営駐車場に車を止めようとするがゲートが開かない。よく見ると営業は8時から。迷っていると、とても親切な老女が別の無料駐車場へ案内してくださいました。ありがとうございました。コースは、踏み固められた雪の上をゆくり歩いて2時間半で山頂に着いた。コース途中からは北側に女峰・小真名子・大真名子・男体山がよく見える。その奥には太郎山。いつかは縦走したいな・・・西側には、昨年夏、山口先輩が苦難の末、縦走した「禪頂行者の道」の縦走難コースがよく見える。ととても長い。さらに鳴虫山に向かって歩いていくとどンドンと男体山が近づいて来る。下山となると。アイゼンをつけていないため、滑りやすく、緊張の連続で雪山訓練となった。メイン道路に出ると観光客で大賑わい。さすが、世界遺産の日光と改めて感心した。早く下山できたので、赤薙山、女峰山、小真名子山、大真名子山、男体山縦走のための下見に霧降高原へ偵察に行き、山口先輩にコーヒーをごちそうになって山荘に向かった。



世界遺産の日光と改めて感心した。早く下山できたので、赤薙山、女峰山、小真名子山、大真名子山、男体山縦走のための下見に霧降高原へ偵察に行き、山口先輩にコーヒーをごちそうになって山荘に向かった。

(山口、梶、黒澤)

2/11 栃木 大平山

東武新大平下～大平山～晃石山～東武新大平下(伊藤)

2/12 群馬 桐生 鳴神山

メインの登山口は桐生市駒形(鳴神山西)のようだが、今回は鳴神山東側の梅田登山口からの往復。車で桐生市の梅田の鳴神山登山口へ08:30着。駐車場を探し少し離れたところに止め08:40登山開始。鳥居を抜けて山道を少し歩くと旧伐採道路に出る。下草を刈ったこの道路に沿って上る。600mあたりから雪が出てきて、昨日の暖かさで解けた雪が凍り滑って歩き難い中、肩の祠に10:10着。そこから慎重に約10分程登り頂上へ。薄曇りで奥日光の山は見えないが近くの山や東京方面はよく見える。10:30に来た道を下り11:45に駐車場着。頂上近

くで3パーティの登山者に会う。樹林帯は風が無く穏やかだったが稜線へ出ると冷たい風が強くなり寒い。この寒さで携帯のカメラの電池が働かず写真は撮れなかった。(井上×2)

2/12 奥多摩 川苔山～蕎麦粒山

奥多摩駅からバスに乗り川乗橋で下車(07:45)。林道を歩きだす。初めてのコースで川苔山を目指す。細倉橋から登山道になるが日蔭の道は凍結している。登山者は殆んどアイゼンを付けている。百尋の滝から急登りになる。積雪が多くなりチェーンスパイクを付ける。3時間半で山頂に着く。(11:15)風が冷たく手が痛い。日向沢ノ峰から蕎麦粒山の稜線は雪も溶けて地肌が見える。6時間も登りが続くと年齢的に登りがキツイ。蕎麦粒山には14:22に着く。バスの時間が気になり直ぐに鳥屋戸尾根の下降に入る。積雪が多い割にトレースが有ると昨年、登り下りを経験してるので自信持って降りられたがガスってたらと思うとゾットした。急ぎ足の2時間半の下りで川乗橋に着いた。(16:55)。三ツドツクから甲武信岳が未踏となった。当分奥多摩通いが続く。(山口)

2/18 奥多摩 三頭山

二週連続の奥多摩通い。目的は奥多摩三山から笠取山迄のトレースの一環の山行である。奥多摩駅から「小菅の湯」行きバスに乗り山梨県の「余沢」バス停下車。(08:17)深山橋からお客は自分一人だった。バスの運転手に聞くと冬の時期、登山者は殆んどいないそうだ。数百メートル先の登山口迄は脇道にも一切標識が無いので注意です。1時間半ジグザグ道を登ると雪道になり、足を取られスピードが上がらない。向山を過ぎ子焼山の縦走路を左に進みアップダウンの山稜を登るとようやく三頭山(1,531m)に到着(12:55)。今年初めての富士山はやはり良い。ここから鞆口峠～風張峠迄は大部分が雪解け凍結路である。時間は15:00となり計画の2時間遅れなので下山に決めた。20分もしないで舗装道路になりキャンプ場から初めての浮橋を渡り小河内神社バス停に下山した。登りも下りも誰とも合わなかった。(17:04)一時間後バス乗る迄寒かった！計画では御前山迄行く予定だったが甘かった。又次回に。(山口)

2/24 御坂 河口湖 十二ヶ岳

前日21時山荘＝河口湖＝翌1時頃河口湖東P/夜空は満天の星空で中でも北斗七星がとてもきれいだったが、寒くてあまりよく眠れなかった。

早朝の河口湖の気温は-6℃、とても寒かった。登山口までおおよそ30分、途中、徳島から逆さ富士を撮影に来たカメラマンと遭遇。随分と遠くから来たな。と思つたらなんと6回目とか。登山口から登り始めると始めから急騰。先頭に行く木戸は結構速いペースで登っている。結局山頂まで急騰を登りっぱなしだった。途中、振り返れば富士山が近くに見える。下



山は、11、10、9・・・を長い鎖やロープを頼りに登ったり下ったりの繰り返し、岩と氷や雪のミックス。木戸はノーアイゼンでも平気で進んでいく。バランス感覚と慎重な足運びは素晴らしいかぎり。西湖東口に14時に到着するとすぐにバスが来た。山口の計画はいつも素晴らしい。待つことなく乗車できて、Pに着いた。バスに外国人の観光客が、運転手さんと会話をしている。何となく発音も素晴らしい。今回は素晴らしいことの出会いが多かった登山であった。(山口、木戸、黒澤)

2/25 高尾山

高尾山口～稲荷山～城山～日影林道～JR高尾駅(伊藤)

2/27 足利市 赤雪山～仙人ヶ岳

赤雪山(620.6m)から仙人ヶ岳(662.9m)まで縦走。車で松田川ダムへ。08:40 松田川ダム先の登山道入り口近くに着。08:50 出発。今回は尾根道を登り、09:50 赤雪山頂上。入り口こそ落ち葉で分かりにくい尾根の登山道はしっかりして歩き易い。赤雪山頂上から仙人ヶ岳までの4.2kmでは相当数の下り登りを繰り返し11:50 仙人ヶ岳頂上へ。途中葉の落ちた木々の間から仙人ヶ岳が見えるが写真を撮れなかった。12:00に下山開始して急な坂道から沢沿いのしっかりした道を20分程で下り12:20に野山林道の終点へ。12:50 駐車した場所へ到着。風が冷たいが天気が良く気持ちの良い参考でした。平日で途中一組の登山者と一人のランナーに会いました。この時期としては殆ど雪が有りませんでした。(井上×2)

3/4 奥武蔵 日和田山

飯能～天覧山～日和田山～物見山～ユガテ～東吾野(伊藤)

3/10 八ヶ岳 阿弥陀岳 北稜

土日(10～11日)は天気が良くなる予報だったので、何十年振りかの雪の岩稜登攀を楽しもうと、木戸と共に阿弥陀岳北稜を目指した。金曜日(9日)の夜10時にJR高尾駅で木戸をピックアップして中央自動車道を走る。八ヶ岳PAで仮眠をとり翌朝(10日)、明るくなってから雪道となった美濃戸口駐車場への道を守る。雪は朝方には止んでいた。美濃戸口駐車場で準備をして7時40分に出発する。美濃戸からは良く踏み均された南沢コースをたどった。行者小屋テント場でテントを張り、時間があるので中岳道の状態を見に行った。樹林帯は、しっかりとしたトレースがついているので安心した。翌朝(11日)、必要な登山具をザックに詰め込んで6時30分に出発する。中岳道からジャンクションピークを目指す。途中の雪稜から続く灌木が生えている急な斜面の稜線を登る。ここで木戸がロープを出してこの斜面を登り、続いて私が第一岩峰の下まで稜線を登った。第一岩峰基部には、先行パーティが登り始めていて、我々はその下で待機した。ここから下の方には、2～3パーティが登って来ているのが見える。第一岩峰は左側の4～5mの凹角を登り稜線に出る。ここは、木戸に確保してもらい私がリードさせてもらった。階段状のスタンスにアイゼンを乗せることができ、安定した登りができる。凹角を抜け稜線を慎重に登ると、第二岩峰基部にペールのボルトが2本打ってある。ここで、木戸を確保し、次のピッチをリードしてもらおう。登り始めは4～5mの岩壁を右上に登っていく。ナイフリッジを過ぎ続くなだらかな稜線を進み、阿弥陀岳山頂(2,805m)には9時55分に着いた。先行のパーティは既に降りてしまったようだ、山頂には誰もいない。山頂で

記念写真を撮り、早々に、雪の夏道を下る。ここもしっかりとしたトレースはあるが、傾斜が急な雪面は後ろ向きになってピッケルを刺しながら降りる。中岳のコルで休憩をとる。行者小屋へは中岳沢にトレースが付いている。以前雪崩事故があった所なので心配だ。テントに着き帰路の準備をする。テント場からは来た道を12:30に下山開始する。16:20 美濃戸口駐車場に着いた。(塚田、木戸)

3/17 谷川岳 土合～白毛門山

土合駅真つ暗なホームで写真を撮っていたら、肩をたたかれた。振り返ると伊藤さんだった。長い階段(462段+24段)を登らないとならないが、伊藤さんについていけない。廊下になったので、走って追いかけたほどだ。土合駅待合室は火気厳禁が守られないので、使用不可になっているまま、トイレはきれいだった。土合橋駐車場は一面雪だが駐車は可能。午前中は雪も閉まっていて歩きやすかったが、樹林帯を抜け日が当たる部分はザラメ状態で滑り、ピッケルもずぶずぶに刺さって体力を奪われる。途中、雪庇が大きく間違えれば落ちてしまうかも。昨年、谷川でクレバスに落ちたので注意。本日は快晴で谷川連峰も立派だ。先輩方ほどの岩壁も登ったらいい。どうやって上るんだろう。山(女)男すぎすぎる。15時の電車に間に合うよう、下山はアイゼン着用し急ぎ足で下山、伊藤さんは途中で外した。予定時間よりも早く降りることができてホームで時間つぶし。雪崩もなく無事戻れてよかった。(黒澤、伊藤)



3/18 丹沢 丹沢山～宮ヶ瀬

久しぶりに丹沢山から三ツ峰へ静かな下りへ出かける。始発バスに乗り大倉で降り07:06分に出発する。快晴だと思っていたが、稜線は雲に覆われている。厚手の手袋、帽子を持ってこなかった。大倉尾根は春に近いこともあって多くの人出である。様々な人がいる。「往復休まず歩く」と言うお婆ちゃん。24時間で塔ノ岳何回往復出来るか走ってる人等。塔ノ岳手前樹林帯からは、昨夜の雨が樹氷となり、強風で顔に当たり痛い。稜線はぬかるみの道だがは人が多い。丹沢山までは4時間と良いペースで来た。ここから三ツ峰コースを下る。なだらかな尾根下りから三つのアップダウン。ちょっとした急峻なトラバースも有り静かで良い山だである。登りは3パーティとすれ違い、下りは自分だけだった。宮ヶ瀬の三差路バス停には16:00に着き、バスに乗り本厚木に向かった。(山口)

3/24 南ア 甲斐駒ヶ岳黒戸尾根(敗退)

3/24 : 穴山駅からタクシーで竹宇の駒ヶ岳神社駐車場へ。06:00 出発。6 年振りの黒戸尾根だが、数日前の大雪で七丈小屋辺りで大股位の積雪があるようだ。一時間も登ると雪道になる。笹ノ平～八丁登り～刃渡りと登るが呼吸がきつくペースが全く上がらずどんどん後続に抜かれる。かつてないきつきである。黒戸山付近では 50cm の新雪があった。五合目には 14:30 分に到着。8 時間半(マップタイム 5 時間 50 分)も費やしてしまった。ここからは八合目と上部が見えるが雪をたっぷり付けている。明日登りてえ！。18 時就寝。

3/25 : 夜中から強風が吹き荒れ雪がテントを叩きつける。星空なんだが、2 時に起きて 3:20 にテントを出す。五合目から屏風岩を登り七丈小屋を経てから尾根に上がると右からの風が強さを増してくる。樹林帯の八合目の登りになると先行は単独の男性でスノーシューで登っていく。こっちはワカンも持ってきてないのでどこをさぐっても太股までの深さである。八合目と上部も雪煙が上がり頑張っても頂上まで行っても今日中に帰宅出来ないのて下山する事にする。五合目で撒収していると昨日のパーティが続々下山してきた。皆、「強風と積雪で体力使い果たしました」これで納得した。黒戸山からはすっかり穏やかな天気になり難なく竹宇神社に下山した。(山口)



3/25 前日光 鳴虫山(1103.5m)

電車で 08:15 に東武日光駅へ。入り口の分かり難い町中を通り 08:40 に登山口より登山開始。杉の植林地帯では見晴らしが悪いが、落葉樹の間からは雪を被った日光の山(男体山、大真名子、女峰山)が間近に見え景色を楽しみながら 09:15 に神ノ主山(こうのすやま)を經由して 10:15 に鳴虫山頂上着。写真の鳴虫山 a は頂上、鳴虫山は頂上から日光の山。10:40 に下り始め、林道に 12:00、含満ヶ淵に 12:15、東武日光駅に 12:40 着。途中雪は殆ど無く風も穏やかで気持ちの良い登山日和でした。山頂には幾つかのパーティが居ましたが日曜日の割に人が少ないようでした。(井上×2)

3/25 日向山

日帰で山梨県の日向山に雪山ハイクに行ってきた。尾白川溪谷駐車場を 9 時出発。樹林帯の登山道を 3 時間で山頂。雪は上部で 20cm、この日は 10 名位が登っていました。山頂からは八ヶ岳(まさかあんな滑落事故が起こっていいよとは)甲斐駒ヶ岳。雪のため白亜の雁ヶ原は見えず。15 時駐車場着。痛めていた足が痛くならなくて良かった。(梶、他 1 名)

3/31 棒の嶺 白谷沢

川井～清東橋バスを降りたのは 5 人。百軒茶屋の前を通りに登山口(8:00)～山頂(8:50)棒の嶺へ登ったのは 2 人高齢者の方だったが、全く追付かず。1 時間弱かかったが、10 分離されたよう。山頂で話を伺ったら青梅マラソンにも参加していたとのこと。本日もほぼトレランで 10 時間かけて遙か彼方まで行くそう。恐れ入りました。山頂 9 時～岩茸石山に登って写真を撮っていただき、白谷沢を下山。名栗湖登山口(10:30)～さわらびの湯(10:46)へ着くとすぐにバスが来て乗車、飯能まで。白谷沢はたくさんの方が登ってくる。沢は下りより登りのほうが楽しいよ、と。もうそろそろ「沢の季節」駅前のお手頃焼肉店「名門」にて和牛ランチを食して帰宅。(黒澤)

3/31 丹沢 表尾根

大倉から三ノ塔尾根を登り三ノ塔から塔ヶ岳まで表尾根を縦走し大倉尾根を下降した。午前中は快晴であったが午後になりと山の上に雲が広がり太陽を隠してしまった。土曜であったこともあり、表尾根を縦走する登山者はそれほど多くはなく静かな山行が楽しめた。山麓では、桜の花が満開であるが、山はまだ冬の季節の中に置き去りにされている。(塚田)

4/1 八ヶ岳 蓼科山

足の調子がいまいちな為、先週に続き雪山ハイク。今回は蓼科山に登って来ました。前日、女の神駐車場に前泊し 6 時出発、登山道を 60 分程で 2133 メートル標識、急な雪のガレた岩場を 90 分程で山頂到着。こういう所はチェンスパイクが使い勝手がいい。広く眺望の良い山頂でのんびりし、12 時には駐車場に戻れました。この日は 15 名程の登山者の姿。皆さん山頂を楽しんでいました。まだ下りで足が痛い。しばらくはハイキングで調整予定。(梶、他 1 名)

4/1 静岡 日本平山(307m)

18 キップにて J R 草薙駅下車この辺の大まかな土地勘はわかる？のだが山(土地)勘はわからない。でも少し歩くと目標の頂上タワーが遠望できた。ほぼ舗装道歩きだが、山麓に近づくとも山道となりハイカーさんもふえてくる。道は明瞭、日本平に近づくとも観光地 MAX、頂上展望台まで歩き、昼食ラーメン食して、静岡駅方面のバスに乗車「目的」の親戚宅至近のバス停で下車して今回の山行？を閉じた。(伊藤×2)

4/4 関東平野 筑波山

車で筑波山へ。08:00 につつじが丘駐車場着。08:15 に登山開始。暑い中 09:15 に女体山頂着。09:30 に男体山に向かって出発。かたくりの花が盛りでそれを見ながら男体山頂上に 09:55 着。10:05 に下り始め 10:25 に女体山を經由して 11:15 駐車場着。晴れてはいるが霧って周りの景色はぼやっとしか見えな。登りには殆ど人に会わなかったが下りは多くの登山者と会う。(井上×2)

4/8 箱根 金時山～明星ヶ岳～塔ノ峰

御殿場側の乙女登山口を 08:40 に出た金時山には 10:00 に着く。快晴と、春になった事もあって人が多い。富士山～芦ノ湖～仙石原～大涌谷～駒ヶ岳～相模湾そしてこれから向かう旧外輪山と気持ちの良い眺めである。矢倉沢峠～火打石岳までは仙石原から直ぐなので家族連れが多く明神ヶ岳～明星ヶ岳

～塔ノ峰までは岩、根っ子の無い優しい道なのでトレラン、特に女性が多い。9年前より30分早く箱根湯本駅に着いた。今回で5回目の金時山であるが全て晴れなのと、見晴らしの良さに惹かれてきてしまう。(山口)

4/1 静岡 伊豆 天城山

足の調整ハイキング、三回目。今週は静岡県天城山に。朝出発、9:30 天城高原ゴルフ場駐車場。10:00 出発、11:00 万三朗岳、12:00 万二郎岳 山頂 周回コースから 15:00 駐車場着。まだ足が痛い。GWに間に合うだろうか？ (梶、他1名)

4/14 表道志 九鬼山～高畑山

二日間の山行計画の予定であったが、日曜の悪天予報なので一日山行に変更した。富士急の禾生駅(08:10)を出発して九鬼山からの稜線の久美山(950m)には09:47に着く。ここからは樹林帯の中の道を進む。強風の中、檜木や岩稜の道を高指～大桑山～高畑山(秀麗富嶽12景982m)に13:36に着く。あいにく富士山は望めなかったが風を除くと静かな道だ。ここから左に道を取り下山につく。足に優しい道を2時間弱でJR鳥沢駅に15:50分に到着する。久しぶりに1人の登山者も出会わなかった。(山口、他4名)

4/20 荒船山

車で内山峠駐車場に08:20着。08:40 登山開始。朝のうちは風が冷たく新芽の出ている樹林の中をゆっくり登り一杯水に09:30着。そこから急な登りで鱸岩(ともいわ)展望台(1330m)10:00着。靄って遠くは良く見えないがとりあえず浅間山を始め近くの山がぼんやり見える中10分休んで経塚山へ。殆ど平らな道を進み星尾峠分岐に10:40着。経塚山(荒船山1423m)頂上10:50着。頂上では見晴らしが殆ど無い中15分ほど休み、11:05下山開始。駐車場に11:40着。駐車場に朝は他の車がなかったが帰りは10台近く止めてあった。(井上×2)

注:下仁田I.C.の手前の道の駅で蕎麦を食べたが不味くて食べきれなかった。

4/22 上州 武尊山

前日の19:00に若葉駅に集合し車で出発する。武尊神社駐車場に他の車はない。車の隣にテントを張る。朝5:30出発。天気は、高気圧に覆われ快晴の予報だ。所々に雪の塊が残っている須原尾根分岐まで林道を歩く。山の木々には若葉が芽吹き始めている。須原尾根分岐から須原尾根コースに入る。稜線の避難小屋(1660m)まで急な斜面を登ると、稜線にはたくさんの雪が残っている。ここでアイゼン、サングラスを着ける。雪は腐って歩きにくい。行者ごろげ下で若者のパーティが急な雪の斜面に登れないと言って引き返していった。行者ごろげ(小ルンゼ)は雪が一部凍っている。続くなだらかな残雪の稜線を、武尊山頂を目指して登る。しばらく行くと剣ヶ峰山(2020m)や前武尊(2040m)が間近に見られる。また遠くに山頂付近に雪の残る谷川連峰や尾瀬、日光の山々が望める。12:39頂上(2158m)到着、さすが百名山多くの登山者でごった返している。剣ヶ峰山経由で下山を予定したが登りに時間を要したので、同ルートで下降することにした。山頂からいったん下った2085m付近の稜線から行者ごろげ下を直線的に目指して、急な雪の斜面を降りる。アイゼンが団子になる程度で問題はなかった。1900m地点で須原尾根に入る。須原尾根を下り。16:30駐車場に到着した。なお、本日このコースで出逢ったのはたったの4

パーティであった。また、帰途の車窓から周辺の美しい木々の新緑を湖面に映す藤原湖が美しかった。(吉田、梶、塚田)

4/28 北ア 蝶が岳～常念岳

蝶が岳から常念岳・三股から周回報告です。1時過ぎに森の広場P着。3時を過ぎても誰も動かず。4時にPを出発。三股P(トイレあり)を経由して、登山口で登山届記載。4時50分蝶が岳に向かう。沢は歩けないくらいに増水。5:20ここにいたのか?ゴジラに遭遇。6:00まめうち平(1900m)男性によるとニセ常念があるらしい。しばらく歩いてから雪が凍っていてアイゼン装着。9:15蝶が岳(2677m)山頂着。地元の好青年に穂高連峰の説明をもらった。アイゼンを脱いだ。ヒュッテで水1L 200円で補給し9:45常念岳に向かう。16:00頃つけるかな?と思いながら稜線を進み、初めて雷鳥?に遭遇。途中の鞍部から常念手前の岩場までアイゼン装着。遙か後ろにいた身軽な女子と関西の男性に抜かれながら常念山頂(2857m)に14:43着。ちょうど5時間。関西の人は山頂脇に天泊。15:33前常念、15:36避難小屋経由で、岩場、雪道、樹林帯を下って18:47登山口に到着。19:00森の広場P到着(Pはまだ余裕あり)。初の北アルプスはいろいろなことがありました。常念からの下りでは寝不足と疲労で腹ペコなのに食べ物のがのを通らず体調不良。雪道も薄いトレースが頼りで下山できたことが不思議なくらい。樹林帯は下っても下ってもたどり着かない登山口。下山後は、「ほりで一ゆー」でお風呂と食事のセットとノンアルコールビールを楽しみ、車で2時間爆睡。29日は霧ヶ峰登山口を探したものの、見つからず帰路に着いた。(黒澤)



4/28 筑波山、V字谷～男ノ川～男体山～女体山

GWまで一日空いたので軽い気持ちで筑波山へ。高難度のV字谷ルートへ。梅園からの入り口は分っていたのでスムーズに谷に入り、最初の滝は左手の太木を両腕で抱えて身体をスイングして二回目に登れた。次の右上する滝は水量が多くてホールド、スタンスをシュミレーションして取りつくが靴も柔らかいハイキングシューズなのでずり落ちてしまい、しかたなくもう降りられないので右の泥壁を回り込んで巻く。男体山からコースホステル側に降り左手の男ノ川を登り再度男体山へ。女体山から白雲橋ルートから下り梅園に戻った。甘く見過ぎた山行だった。反省。(山口)

4/28 三浦半島大楠山

お早うございます。連休初日の本日単独で、三浦半島大楠山[大楠山]に行きます。ヨロシク。= 只今、三浦アルプス最高峰「大楠山242m」山頂。一点の曇もない、春晴です。= 三浦半島大楠山下山しました。(植田)

4/29 東北 岩手山

4月28・29日残雪の岩手山に登って来ました。予定では鬼ヶ城から網張温泉まで縦走しようと思いましたが、雪深かそう断念。八合目避難小屋から山頂をピストン。山頂付近は物凄い風で、登頂を諦めようと思いましたが、なんとか下から周りこんで登頂。帰りは盛岡駅で冷麺を食して帰宅。(梶、他1名)

4/29 日光 鳴虫山

早朝、電車乗り継いで東武日光8:16着、今回も午後から仕事のため「馬力」を上げ出発、地図無く登山口わからず、近所のおじさん「この先保育園、橋わたる。」とのこと。休憩1回で10:00山頂着10分休憩、一目散で駆け下り11:10着。11:12発の電車です仕事先へ
(伊藤)

5/4 奥多摩 大丹波川 真名井沢

7時川井で待合わせ。7:30車で真名井橋先のP着。5分ほど歩いて水の少ない沢をしばらく歩いているとわさび田がちらほら。8時準備して入渓すると堰堤が2つ続く。その後小滝をいくつか越えて8:50に休憩するとすぐに6mの魚止めの滝。その後は4~5mの小滝を十ヶ所ほど越えた。途中の大滝登りは伊藤さんがシュリングを倒木に巻いて登った。ここまででロープを2回使用。標高おおよそ1000m地点で出渓。小石でずるずる滑る斜面をロープを使って登り14時過ぎ赤杭尾根稜線に出た。その後真名井林道をトラバース気味に延々と歩いてPへ。今年初の沢登、蜘蛛の巣と倒木に悩まされましたが気持ちのいい水温と新緑の美しい沢登りでした。

(伊藤、黒澤、他1名)

5/4 日光 男体山

昼に東武東上線若葉駅に集合し、大海老さんのお宅に寄って故人の冥福をお祈りした後出発。入山口の霧降高原は激しい雨であった(当初赤薙山から女峰山を登り男体山までの縦走を計画)。翌日の好天を願い駐車場にてテント泊。翌朝も天気変わらず諦めて鬼怒川の温泉に向う途中いろは坂を越えて中禅寺湖畔に出たところで天気が回復。二荒山神社から男体山往復の計画に変更。八時過ぎ出発。天気は暑くなったり霰がふる状況となったり度々急変する。頂上に13時前に到着。中禅寺湖や日光白根山方面が何とか望めた。鳥居にて手を合わせ下山する。霊験あらたかな山の雰囲気満喫し心洗われる登山であった。
(木戸、梶、吉田、山口)

5/6 南高尾山稜

午後から暑くなりそうなので、早めに家出発、何とか午前中にまとめた。(伊藤)

5/12 奥秩父 笛吹川 東沢 鶏冠谷右俣

西沢溪谷は多くの沢があるが、今回は日帰りのため鶏冠谷右俣へ。奥多摩とは違い岩も滝も大きく、水も美しい。ナメやナメ滝、大滝を楽しく進むことができたが、しょっぱいところも多かった。特に逆くの字15mではまた落(滑)ちた。水が冷たく指の感覚がなくなって、リカバリーでは岩をつかんでもつかんでいるのかさえ分からない。全身水浸しになり、心も身体も洗われた。
(黒澤、山口、伊藤)



5/13 三浦アルプス 二子山

お早うございます。本日単独トレ-2で、三浦アルプス二子山に行きます。やっと森戸川-乳頭山-二子山-阿部倉山の二子山山系をクリアできました。以前小生が2.5万円でクリアできなかった「森戸川源流域」は、地元のガイド図には「道迷エリア」とされ、ルートが記載されていませんでした。(植田)

5/20 第9回朝友高尾山ハイク

本日の「高尾山追悼ハイク」、お疲れ様でした。天候にも恵まれ、零れ陽光の広場での酒宴とジャン拳合戦。お蔭様で、皆童心に還つての盛り上がった時間を過ごすことができました。また来年も、同時期に計画したいと考えていますので、宜しくのほど宜しくお願い申し上げます。(東京朝霧山岳会 会長)

5/27 戸倉三山 刈寄山

武蔵五日市駅に降りて、金毘羅尾根経由で日の出山と想っていたが、いざ歩きはじめると「またかよ！」イメージが頭の中に！ そうだ街道対岸？の戸倉三山方面に変更、「沢戸橋」方面に歩きだす、地図はないが盆堀方向に歩けば林道につながり途中、登山道が有る筈だと思ったがそれらしい道はなく、延々舗装された林道を歩き、あろうことか「入山峠」に出てしまった。ここに出てしまうと三山縦走の中間なので近くの「刈寄山」に！頂上からは「武蔵五日市街」が遠望でき、そうなるかと降りたくなり刈寄沢沿いの登山道から1.5時間で武蔵五日市駅に降りた。(伊藤)

6/2 足尾 皇海山・鋸山

皇海山(2143.6m)と鋸山(1996.0m)往復

関越道沼田I.C. 経由で老神温泉へ。荒れた林道を約1時間運転して06:15に皇海山駐車場へ。07:00駐車場発。見晴らしのない原則沢に沿って08:20鞍部に着。沢登りなので難易度は水量に依存する様だ。今回は少量の水が流れていて、岩が滑りそうだが濡れはしなかった。岩が乾いていれば楽だし、水が多いと濡れそう。10分ほど休んで皇海山頂上に09:15着。見晴らしが無く、何とか日光白根山方向が見える。09:30に下山開始して10:05にコルを経由して鋸山へ。最初は石楠花の花が咲く林の中を登り、15分程で岩場へ。そこからは岩稜に沿って岩場を登り10:40頂上着。ここは見晴らしが良く日光連山は本より上州武尊山から上越の山まで見える。11:00下山を始め分岐のコルから登ってきた沢を下り12:30に駐車場着。梅雨入り前の晴れ間で暑くなく天気が良く気持ちよい山行でした。

(井上×2)

6/2 丹沢 鍋割山～塔ノ岳

奥多摩か丹沢か迷って丹沢へ！
鍋割山から雨山峠に向かって下ったら目立たない赤ペンキを見落とさないようにして熊木沢出会に向かった。薄い矢印とテープを頼りに下っていく。(大きな間違いさえ起こさなければ登山道へは出られる。)熊木沢出会からは、蛭ヶ岳、棚沢ノ頭、塔ノ岳へ向かう三つの登山道がある。いつかはここから蛭ヶ岳に行ってみたいと思うが、今回も塔ノ岳に向かった。尊仏ノ土平はどうしてあんなに広いのだろうと、いつも不思議に思う。鍋割山から塔ノ岳までは誰一人いない貸し切でした。(黒澤)

6/3 丹沢 三峰山

お早うございます。5/2逝去大エビさんの1ヶ月に当たり、梅雨入り前の好天を利用して、単独トレ-3として、大山/三峰山に行つて来ます。谷太郎川～唐沢峠大山～三峰山～谷太郎川で予定していますが、時間が有ったら三峰山北稜線から物見峠経由で清川村に下山します。
只今 12:00 三峰山頂上ナリ。これより北方稜線を物見峠に向かう。
只今、煤ヶ谷下山。谷太郎沢～唐沢峠～大山～三峰山～物見峠～辺室山～煤ヶ谷 (植田)

6/3 飯能 天覧山岩トレ

天覧山へ山口他4名です。息切れが階段でも出てくるようになった。(山口他4名)

6/3 栃木 佐野 唐沢山

東武佐野線 堀米下車 駅前から目標の山はみえているので、県道をテクテク行く、山腹のつづら折り道を歩くとほどなく登山道が出てくる。暑いのでハイカー皆無、唐沢山は「唐沢神社」でもありさっさと進む、ここは「関東ふれあい道」なので気楽である。途中「東京農工大演習林」の林道に何故か入り込み何とかなるだろうと思いつつ進むが、一向に進む方向が違う、明らかに間違えたようだ。まあ戻るのもなんだし、先を行くが一向に標高が下がらない、山麓を「ぐるーと」迂回している。途中「微かな」下る方向の踏み跡があったので下るが藪が濃い。下っているのは間違いなくそのまま降りると、河原に沿う「微かな道」が交差すると、大規模な太陽光発電敷地にでた。そこからほどなく「唐沢橋」～佐野線 田沼駅に迷い初めて1.5時間をついた。なんでこんな低山で迷うとは！私には山登りのセンスがないのである。～午後2時から仕事！(伊藤)

6/9 南高尾山稜

高尾山口～草戸山～大垂水峠～高尾山～高尾山口・距離18Km 5時間切るには3回休憩の時間を短くすればいいのだが、早く歩けばなんかいいことあるのか？多分ないな～ (伊藤)

6/17 裏妙義山 丁須の頭 (下)

天気予報が見事に外れ、朝から深い濃霧と雨。途中山ヒルの襲撃。丁須の頭の下まで行きましたが引き返しました。山ヒル恐るべし！ (木戸、梶、吉田、他1名)

6/17 奥武蔵 天覚山

武蔵横手～天覚山～東吾野 当初は「奥多摩」と思っていたが、電車で移動中に変更近場の奥武蔵へ、雲は重くどうなることやら～天覚山で13時となりこの先登り下りも多く雨後で滑り易いので下山と相成る。(伊藤×2)

6/23 福島 阿武隈山地 霊山(りょうぜん)825m

前夜、海浜幕張を18:00に出発して23:30に登山口駐車場に到着する。テントを張ろうと思ったが獣の鳴き声が気持ち悪くて車で寝る。翌朝04:10に出発する。25分も歩くと最初の宝寿台から水平歩道みたいな登山道になる。幾つもの岩を廻り込み登ると1時間で国司館(陸奥の国府)と霊山城跡に出る。更に10分位で最高峰の東物見岩(825m)に着く。遠くに安達太良山が見えるが晴れてると海が見えるらしい。下りは問題なく周回道を降りて登山口に着く(06:25)。(山口)
※霊山は国の史跡・名称になっていて、紅葉も有名で駐車場は数百台ある。

6/23 宮城蔵王、刈田岳～熊野岳

車で1時弱の飯坂温泉にたっぷり浸かって汗を流し蔵王に向かう。1,350m付近ではもうコマ草が咲いていた。蔵王の山肌にはまだ雪も残っているのでかぜは冷たいが遠くに飯豊の山々が見えるし気持ちのいい稜線散歩だった。(山口、他1名)

6/23 奥武蔵 多峯主山～高麗峠

飯能～天覧山～多峯主山～高麗峠～巾着田～高麗・巾着田で雨が！、高麗通り道でねぎ(購入)背負ってかえる。(伊藤)

6/30 奥多摩 多摩川水系(志田倉沢)シダクラ沢

奥多摩駅からバスで惣岳バス停下車、奥多摩むかし道の鳥居をくぐり、しだら橋を渡ると入渓点2～4mの滝やナメ滝、多段ナメ滝と多く滝をのんびりと歩くことができた。7mの滝もあったが、今回はロープの出勤はなかった。尾根に出るのに1時間、下りは急坂と厳しい面もあったが、木漏れ日のなか楽しい沢歩きだった。氷川サービスステーションにて反省会后帰宅 (黒澤、伊藤)

7/1 信濃川上 天狗山～男山

八ヶ岳の東にある天狗山と男山を縦走しました。馬越峠に前泊し6時間程で男山を往復。男山の山頂は360度の眺望、快適な尾根歩きが楽しめた。山はすっかり夏山です。(梶、吉田)

7/2 上州 武尊山(2158.3m)往復

梅雨が明けた様なので、車でオグナ武尊スキー場から武尊山へ。駐車場に06:15に着。06:35に出発したが直ぐに車で送って貰うグループに同乗させて貰いゲレンデのかなり上まで行く。約一時間の登りを車で済ませる。そこを06:50に出てきつい登りで前武尊(2040m)に7:30に着。ゲレンデの登



りは背中に日を浴び暑く体力を消耗させられる。そこを車で大いに助かる。15分ほど休み岩場の剣が峰を経由して家の串(2103m)に08:40着。剣が峰ではフリクションが効いてホールドも有るが結構神経を使う。そこからは急な上り下りが続き中ノ岳分岐を経由して武尊山(2158.3m)に09:50着。30分ほど休んで来た道を引き返すが、帰りは剣が峰を巻く。最後のスキー場のゲレンデでは日差しが強く暑いので体力を消耗する。13:45に駐車場着。一休みしてから帰る。前武尊までは樹林の中で見晴らしは良くないがその後は天気の良いこともあって日光の山を始め周りの景色が良く見えた。全体に梅雨が明けただけで何しろ暑かった。戻ってもスキー場の駐車場には我々の車だけしか居ない。月曜日もあって会った登山者は上りの車の二人を含め6人だけ。内訳は武尊神社から一人、武尊牧場から三人。(井上×2)

7/7 栃木 大平山～晃石山

東武新大平下～大平山～晃石山～東武新大平下※朝から微雨～霧雨～小雨中の山行、午後から仕事！(伊藤)

7/8 大山三峰シリーズ・宮ヶ瀬周辺

大エビさんの2度目の月命日を兼ねて、単独トレ4として先月の大山三峰山の継続として、宮ヶ瀬周辺低山に行つて来ます。土山峠～辺室山～経ヶ岳～仏果山～宮ヶ瀬(辺室山には前月に、忘れ物をしましたので。)

そうです。あつたんです。辺室山頂上のテーブルベンチ上に、4週間もそのままに、・・・干からびた入歯とサングラスが！仏果山の登り口には、「5/24に月の輪熊目撃注意」の看板が。こつたら、キーホルダーの鈴しか持ってねーッのに。熊に気を取られている内に、ヒルにやられてしまったノダ。目的の仏果山は、檜山節考を彷彿とさせる岩尾根の先の地藏尊の並ぶ広場であった・・・。途中久徳さんと言う環境巡視員の方と一緒に、経ヶ岳まで同行することになる。これからは、単独で仏果山に向かい、宮ヶ瀬ダムに下山。(植田)

7/11 富士山 吉田口馬返 ～ 3,350m

5月からマンション管理組合の役員活動があり、山行は4月の上州武尊山以来、御無沙汰状態。火曜の天気、晴時々曇りを期待してトレーニング山行で富士山に向かう。前日(月)23時に車で自宅から出発。SAで時間調整して、4時前に吉田口の馬返駐車場に着く。駐車場に車は平日とあって4台と少ない。ここから登山者が比較的少ない佐藤小屋までの山道は、樹林帯歩きで、ところどころ雨で濡れている石畳の道を歩く。佐藤小屋から見る富士はガスに包まれ上部は望めない。登山指導センターに着くと、五合目からの外国人が多く混在している登山客と合流する。いろいろな人たちがいるので見ていると面白い。七合目からは10軒ある山小屋ルートとなる。途中雨がパラパラと降り気温も低くなった。ガスが晴れる気配はない。八合目に着いたが時間は昼12時と遅く、天気もパツしない。登山地図では、馬返しから八合目まで登り5時間5分だが、もう3時間も超過している。(ロートルではしょうがないか。)標高3,350m付近で下山することにする。下山道は、雨で濡れていて、砂煙がたたないことが今回のいいところ。石砂の幾十ものつづら折れ道を下る。途中で雲の切れ間から緑が深い初夏の山中湖地帯が一望できた。(塚田)

7/14 丹沢 大山

お早うございます。大山北尾根に行きますので、宜しくお願いします。札掛ルート予定です。

植田只今、大山頂上。ヤビツ峠先塩水橋通行止めの為、ヤビツ峠より大山に登る。この先の北尾根ルートを検索中。「ナニ」です。塩水林道が不通の為、40～50年前の丹沢裏尾根の各口や、宮ヶ瀬ダム周辺等の偵察は止めしました。不調原チャリは、ヤビツ峠の上りは立漕チャリに負けそうでした。大山は今回もヒルにやられました。チクショウーツ。所で、先程帰嫌しました。緊連有難うございました。(植田)

7/14 奥多摩 大岳山

沢沿いのルートなら涼しいだろうとの事で海沢探勝路から大岳山に向かう。沢を遡行するパーティを羨ましげに見ながら急坂を登って行く。大滝は見ごたえがある。ワサビ田を過ぎると傾斜も落ち縦走路に合流する。間もなく頂上だが視界は白くもやっていて良く見えない。鋸山から奥多摩駅へ下山する。(山口他2名)

7/15 谷川岳 湯檜曾川東黒沢 白毛門沢

「白毛門沢」沢と岩を楽しむ！

沢は大きなナメ滝が多く素晴らしい。CL木戸のもと遡行は順調に進んで行った。若干の苦労はタラタラのセンの巻きが途中不明瞭。本当の苦労は最終ジジ岩・ババ岩あたりからの岩登り。山頂が見えるのだが、岩場での暑さはたまったものではなく、タオルを濡らし頭の上へ。ザイルをつければなし山頂に着いた時の感激はひとしおであった。水がなかったらどうなっていたのだろう。遡行者は、2名のベテランと3名のパーティ(東黒沢へ)と山頂にいると3名。(木戸、伊藤、黒澤他1名)

※本沢は何回も遡行していたが、今回上部スラブ帯を本来の1本西側(頂上直下)に入り込み急なスラブ帯に！緩いスラブ下でハーケン2本打ちロープを伸ばす(30m?)中間支点1本ハーケン打ち込みその上で正面の側壁を避け、右広いレンゼを登り左のやや濡れた壁を1段(30m?-?)登り緩いリッジを登る。その先スラブは終わり急なレンゼ状を慎重に100m登る。(?)正面をやや傾斜のある壁(?)に出合い基部にハーケン、念のため1歩上の小枝にスリングを通す。その上は適当な間隔で枝があり助かる。程なく25mで傾斜は落ち熊笹をこぎ50mいっばいで白毛門山頂上、5m下で2本の枝で支点を作りメンバーを上げた。「久々の谷川特有いやらしい登攀を楽しめた。」



7/15 筑波 小町山

300m級の里山だが、小学生でも登れるように地元の人達がコース、登山道を丁寧に作り上げてくれハイカーも結構多い。パラグライダーの基地もあり飽きることのないコースだった。
(山口他3名)

8/4 南高尾山稜

何処へ行こうか迷った挙句の果てに高尾山南山稜へ。お茶1L持参するもあまりの暑さに、どんどんと減っていく。足りなくなってしまうかと思いつつもなんとか城山茶屋へたどり着いた。ドリンクにするかかき氷にするか迷ってかき氷を購入。城山盛はあまりに大きいので、普通のサクランボ味にした。半分食べて半分は水筒へキープしたが、城山盛にすればよかった。高尾山方面に歩いて、途中で水を全て飲んでしまい、沢沿いの4号路を下った。飲むことはなかったが、絶えずタオルを濡らして首に巻き暑さをしのいだ。全身汗まみれでこのままでは、電車に乗れそうにない。下山後、コンビニでお茶を一本飲み干してから、初めて高尾山温泉 極楽湯に入って帰宅した。南山稜であったのは10人以下だったが、温泉は満員だった。
(黒澤)
ツェルトを張ってみようかと荷物少し多めで歩きましたがとてもしんどかったです。

8/13 越後 荒沢岳

03:40 気合いを入れて出発したが05:30にドシャ降りになりくじかれる。30分位して下山しかけたが、雨が止んだので「荒沢岳の往復だけでも」と引き返す。この山の核心部は前グラの梯子と100m位の左上の鎖場そして又、ロープと鎖場の連続である。また緩やか細い尾根を二時間登ると荒沢岳



(1,969m)の頂上に着く。雨が降り出し、雷も大きくなってきたので縦走を中止して下山する。雨に濡れた岩に神経を使う9時間の行動であった。
(吉田、山口)

8/15 奥多摩 西谷山

8:37に東日原のバス停から出発。夏休みで大賑わいの鍾乳洞の前から左手の神社に上がり登り始める。急登から尾根に出るとミズナラとブナの緑があざやかで特に巨木は見ごたえ十分。木々のおかげで直射日光が当たらず助かる。所々の岩場もペナント、ロープで指示してくれる。金袋山、ウトウノ頭を過ぎて長沢背稜の合流迄5時間。西谷山から雨。避難小屋を経由して郡界尾根をスピード上げて三ツドッケへ。ヨコスズ尾根を下り18時10分に東日原バス停到着する。(山口)

8/19 鈴鹿山脈 北部 霊仙山(1094m)

18日未明離京東海道線を乗継、名古屋に11時頃着。関西本線にて「津市内」また戻り「名古屋市内」の得意先を回り終わり食料調達後、東海道本線大垣先の鯖ヶ井(さばえ)駅下車するとゆうに19時になっていた。丹生川沿い県道をとぼとば歩き1時間ほどで鯖江養魚場、真暗な林道をさらに進む途中「熊出没中」看板が多数あり、適当にツェルト泊に危険を感じ

た21時半を回る頃林道終点となる。ちよい先の雨宿り小屋に着く。座るところにツェルトをかぶり夕食、熊撃退のささやかな効果を期待「香取線香2巻!」を点ける。翌19日まあまあ寝られ、外が白みかけた頃、小屋をあとに先を進む。地図が無いので不安だが程なく廃屋元小屋を通り過ぎると急登で峠(汗かき峠)に出る。遠くに目的の山が見え安心する。両側切れた尾根道を行くと4合目、ジグザク道を上がると6合目ガスって先がわからない。でも道を拾いながら進むと平原に出る。見えない頂上とは逆方向に道は続いていたので、わずかな踏み跡を頼りにショートカットすると予想通り登山道に出合う。ここに目印枝を置きさらに進むと「池塘」その先で9合目印があった。頂上を指しているもののガスって見えない一段下り多分頂上であろう斜面を登ると右頂上、左最高点なる標識に出合う当然、頂上へこのころからガスは吹き飛び周りがバッチリ見え始める。伊吹山、鈴鹿山脈の各山々、そして大垣～米原～大津に沿う琵琶湖も見えた。7:30頂上少し休憩し下山を始める途中「早いですね!どちらから?」と聞かれたが「よくわからないと(本当に!)」答えた。下山ルートはいくつかあるが地図もない、記憶もあやしいので、往路を下る。昨夜泊った小屋は意外と立派であり、長い林道を早足で歩き2時間50分で鯖ヶ井(さばえ)駅に着き、8時間半をかけた中野に帰京した。
(伊藤)

8/19 日光 女峰山(2483m)

当日は数日前の暑さが嘘の様に涼しく霧降高原駐車場の13℃。前日暑さで敗退した階段も余り汗をかかずに上れた。赤嶽山手前の樹林に入るまでは天気が良かったがその頃からガスが出て山並みが見えなくなり結局写真は撮れなかった。時々ガスの間から周りの山が良く見える。女峰山の頂上からは雲の上に富士山も見える。下山途中肩の脱臼した人の手助けで数人集まっていた。更に下山中一人の救助の為警察、消防の3パーティー合計8人に会う。
(井上×2)

8/27 南ア 北岳

前日仕事を終え車で奈良田の駐車場に深夜に到着する。翌朝、始発バスに乗り広河原に到着するがザーザーぶりの雨模様。取あえず合羽を着こみ昼の好天を期待して06:40に出発する。人は多い。大樺沢の道を登るが八本歯のコル辺りから上のガスは取れない。雨は降ったり止んだり。池山吊尾根に合流すると少し風が強くなり稜線に上がると猛烈な風である。仕事柄毎日風速計を見てるが25m以上はある。そうそうに北岳頂上を踏み稜線通しに50分で北岳山荘に到着する。水を補給して間ノ岳に向かうが風雨は収まらず、視界も5~60m位か?農鳥小屋に3時間で着くか?、ツェルト張れるか?等考えて引き返すことにした。広河原には18:30に降りられた。(山口)
後記:二年前と同じ天候で北岳~農鳥岳は又も敗退となる。日本の3,000m峰の最後の西農鳥岳は何としても踏みたい。広河原の夜中は月夜でヘッドランプが要らない位明るかった。

8/29 北海道 知床 羅臼岳(1661m)

~羅臼岳山頂14:30~

(伊藤(久))

9/3 奥多摩 高水三山

天候不安定なので午前中に下山可能などと思い、奥多摩高水三山へ行つたが、軍畑駅に着くと小雨が降っている。合羽を着て1時間ほど歩いたところで、汗でびしょりになっ

た。誰も歩いていないので合羽を脱いで傘に変更。後半は雨が止んで下山。御嶽駅近くのコンビニでフランクフルトとドリンクで一休み後帰宅。雨降りは覚悟していたものはやっぱりつらかった。(黒澤)

9/8 南大菩薩 葛野川深入沢

上越 米子沢が天候不良の為、変更して深入沢にした。深城ダムに前泊して06:50 出発する。メンバーはベテラン2名と初心者2名の構成。結果的に高巻き2か所、要所ではアンザイレンし20数か所の3mから15mの滝を楽しんだ。水量の多さからドボンが少々あった。自分は滝壺を直進と決めてたが深くても首位の深さであった。8時間の行動で深城ダムに戻った。沢全体の状況は最近の台風と天候不順の影響で過去2回よりかなりの水量多さであった全員満足の山行であった。(山口他3名)



9/15 丹沢主脈縦走 西丹澤～大倉

初日は終日の小雨、ゆっくり歩いたものの檜洞丸は手ごわく、臼が岳辺りから歩けなくなり、やっと蛭が岳に到着。山荘で宿泊できますか？と尋ねると、なんと夕食なし！！だったら、と。でも、カレーだったので、余分にご飯を炊いていただき夕食にありつくことができました。(翌日、ご主人から炊飯器のスイッチを入れるギリギリ前だったから追加できた、と。)泊りの準備はしていなかったため、着替えの半そで半ズボンしかなくて、寒くて布団に入りっぱなし。食事をしたら、体が温まってきて、ビールを注文。電話が圏外で、メールも電話もできず、ご主人に特別に電話を貸していただき、伊藤さんに緊電で宿泊することを伝えることができた。最初は電話は貸せないと断られたが、搜索開始されたら大変なことになってしまうと話して、何とか電話を貸してもらえた。泊まれたことと電話を貸していただいたことに感謝します。ありがとうございました。

翌日は、雲の中をひたすら歩いて、久しぶりに「堀山の家」でコーヒーを頼み、なっちゃんから生のナシとマンゴーのドライフルーツにお菓子をご馳走になって無事下山。マンゴーのドライフルーツは甘味と酸味の絶妙なおいしさでとても元気になりました。ありがとうございました。感謝・感謝の山行でした。(黒澤)

9/17 南高尾山稜

高尾山口駅～草戸山～大洞山～大垂水峠～高尾山～高尾山口駅(18:30) 距離18km・超遅い出発となる、なにしろ随所で休憩、大垂水峠当たりで「懐中電灯」必要なと思う。稲荷山コース中間で予想通り「懐電」のお世話になり、駅近くで小雨となる。(伊藤×2)

9/19 東北 岩手山(2038m)

馬返しから岩手(2038m)往復

朝から天気がよい。岩手山麓の馬返しに06:15着。この時点で約50台の車が駐まっている。駐車場を06:45に出て二合目に07:30着。新道を登り09:30八合目着。避難小屋09:45着。避難小屋には水場がある。岩手山頂上(2038m)に11:00着。11:20に出て避難小屋11:15着。12:30に出発して旧道を下り二合目に14:30着。少し休んで15:00に駐車場着。登り初めて直ぐに旧道と新道とに別れ二合目手前で合流。新道を登り旧道を下ったが余り差はない。旧道の方が沢の端で崖の上を歩く。本来の登山道でも新道と旧道があり我々は新道を上がり旧道を下る。新道は樹林の間の急登で見晴らしは悪いが木陰が有り涼しい。旧道は殆どガレ場で歩きにくいが見晴らしはよい。天気が良くても滑りやすいので濡れた時は下りには使わない方がよい。(井上×2)

9/23 南会津 荒海山・七ヶ岳

前日、南会津を廻り登山道情報を収集すると4年前の豪雨水害で結構登山禁止のルートが沢山あった。9/23:道の駅 番屋で寝て暗いうちに八総鉱業所跡に着いて夜明けを待つ。このルートも山も登山禁止だそう。5:25に出発。直ぐに沢沿いの道に入るが水害の凄さ。コンクリートの道はひっくり返り砂防ダムも崩壊している。水量は多く、増水したら帰れないなあ！と思った。40分位歩いて右尾根の鞍部に上がる道も沢の土砂が無くなりスラブになっている。尾根に上がりヤブ漕ぎで鞍部をめざす。後は樹林帯を1時間強で荒海山に着く。新潟と栃木の県境の山で阿賀野川源流の碑があった。下りは鞍部からのスラブをクライムダウンしたが途中から尾根に逃げた。6時間半で車に戻りかつスキー場の向かう。七ヶ岳は平滑沢から登る予定であったが、登山道が流木だらけで登山禁止なのでかつスキー場から登る事にした。13時に登山口をでるがスキー場横の1時間半の道はつまらない。300名山とあってポツポツと登山者はいる。樹林帯に入るとガスが掛り見晴らしも無くなってきた。15時半すぎに七ヶ岳に着く。今度来た時は7番岳へ下りたい。戻りも問題なく下り日没の17時半に下山した。直ぐに駐車場の温泉に入り一日の汗を流した。(山口)



9/23 上州 武尊山

会津方面に一泊で行く計画であったものの天候不順で見送り。日帰りでの山行となった。当日は上州武尊山スカイビュートレイル120が開催されていた。参加費3万円で35時間で129kmを走るそう。剣が峰の先まで並走、かなり抜かれたもののランナーに引っ張られて、コースタイム約4時間のところ3時間ほどで歩いた。稜線に出ると天然のクーラーがとても気持ち良い。紅葉には少し早く、山頂には雲がかかり眺望はなかったものの、吉田先輩の勧めで菩薩界の水をいただきに行った。このお水と途中の三ツ池の池塘に映る光景は最高だった。下山はほんの少しの藪漕ぎをして広々としたスキ

ーゲレンデを通過のんびりと駐車場へ。帰りに温泉 世田谷区民健康村 ふじやまビレッジ¥1050 に立ち寄り帰宅に着いた。(吉田、黒澤)

9/23 丹沢 表尾根

5ヶ月ぶりの登山となるので丹沢にトレーニングに出かけた。前日、山荘で仮眠し朝平井駅 04:49 で新宿に向かう。大倉行のバスは連休の中日とあって多くの登山客で込み合っている。大倉に7:05 着。登山届をポストに入れ三ノ塔尾根に向かう。天気は曇っているが雨が降ってこなければよしとしよう。牛首からの登りで足首を山ヒルに噛まれる靴下の周り両足数匹を取り除く。静かな登山が楽しめたのは三ノ塔まで、表尾根は登山客で込み合う。シロヨメナ、タイアザミ、フジアザミ、ホトドス、リンドウが見ごろ、山の草花は秋の深まりを見せ始めている。大倉尾根の下りは、年のせいか左ひざが痛みペースが上がらない。ストックでサポートしながら 15:55 に大倉に着く。(塚田)

9/23 奥武蔵 多峯山

飯能～天覧山～多峯山～飯能・予想通りの混雑これは「ハイキング」どころではないと判断し、ウラ登山道をつなげて帰路に着く。(伊藤×2)

9/24 枝岐 三岩岳～窓明山

3時に道の駅 番屋を出て27km離れた小豆温泉に向かう。登山口の駐車場が分らず時間を要した。5時半に出るが最初から急登の連続。30分もするとブナの大き木が凄い。1,500m 持過ぎると木々も色着始めている。汗をかきかき3ピッチで懐かしい三岩岳避難小屋に入った。2年前のGW合宿、会津朝日岳から縦走して入った所である。入口横の湧水を飲み頂上を目指す。40分頂上に着く。会津駒ヶ岳、燧岳。反対に窓明山、高幽山、会津朝日岳と見える。2,000mの紅葉と眺めは良いもんだ。窓明山まで歩きそこから家向山を経て3時間半で下山した。急登と奥深さからか登山者には逢わなかった。地元の人達の道の手入れは良くなされていた。(山口)

10/6 千葉房総半島 鋸山

8時千葉駅に集合し、内房線で10時過ぎに保田駅へ。内房線はすいてのんびり鉄道の旅も楽しめる。10時20分保田駅をスタート、林道口を目指す。沢のせせらぎを聴きながら日陰を選んで進むと、鋸山ダムや採石場、切通しを通り越して、11時20分に林道口へ。1.4kmで山頂。途中、グリーンが美しい鋸山ダムや千葉の山々を眺めて12時20分山頂に到着。地球が丸く見えるという新展望台で木戸さんが若い女性からリンゴをおすそ分けされていた。私もついでにいただいたが、羨ましい限りだ。昼食を済ませほろ酔い気分13時40分下山開始。関東ふれあいの道と車力道を歩いて、15時に浜金谷駅に到着。駅前アイスクリームを買って帰路に着いた。千葉の山から望む海の景色は素晴らしく、地球が丸いことがよくわかる。いつか朝焼けや夕焼け、月夜や星空を眺めてみたい。(木戸、黒澤)

10/7-8 北ア、黒四ダム～下の廊下～樺平

10/7: 夜行バスで扇沢に05:20に到着するも小雨が降っている。東の空は晴れているが朝焼けで悪天の兆し?。06:30の臨時トロリーバスは300人以上の人出。黒四ダムの日電歩道出口には30人位いる。立山、丸山も上部はガスってる。06:53

に出発。一時間で内蔵助谷に着くと小雨がパラついてくる。大タテガビン基部の崩壊が凄いが残雪は無い。別山谷手前から岩をコの字に切り取った水平歩道らしくなる。22年前はここで雪渓が渡れず敗退してる。別山谷は増水したら渡れないし先に言ったら戻れない。白竜峡、十字峡、半月峡、S字峡と満喫させてくれる。東谷吊橋を渡り仙人谷ダムは内部を通り外に出たら急登。少し下り阿曾原に14時過ぎに着く。時間が早いので先に進む。一時間半も歩いて16時近くになりようやくツェルト二幅分の登山道に幕営する。雨が止まないがツェルトをかぶってほっとする。早々と18:00就寝。10/8: 夜中に雨も止み04:00に出発。折尾谷まで15分だった。ここも増水したら渡れない。流されたら300m下の黒部川である。1時間も歩くと最大の核心部の大太鼓である。ヘッドライトで照らし両手だけで針金を持って通過する。20分位足元下は垂直の断崖である。志合谷のトンネルに着いて夜明けになりほっとする。39年前、川内と登った奥鐘山西壁をしばらく眺め樺平に07:20についた。始発まで時間があるので祖母谷温泉につかり09:37分のトロッコ電車に乗った。後記: 丁度40年振りの下ノ廊下。楽しかった。ちなみにコースタイムは内蔵助谷から樺平迄、11時間40分が、40年前は9時間35分。今回は11時間11分でした。そして黒部宇奈月温泉から大宮まで1時間54分でした。(山口)



10/7 栃木 大平山～晃石山

東武新大平下～大平山～晃石山～東武新大平下、10月なのに30°C越え、午後3時から仕事!(伊藤×2)

10/13 南会津 田代山～帝釈山

我が地域の人達と恒例の「紅葉+温泉山行」で南会津に出かけた。半月前来た時と同じ「道の駅 番屋」で前泊し翌朝、車で館岩村から湯ノ花温泉を通り約10kmの砂利道を走り上がると猿?登山口(1,375m)に着く。08:50分。紅葉してるブナ、コメツガ、岳樺の急登を過ぎると広々とした田代山湿原に飛び出す。田代とは湿原のことを言うらしい。尾根を巻き尾根に登り詰める細長い頂きの帝釈山(2,060m)に12:06に着いた。余り視界は良くないが燧ヶ岳は良く見える。下りも問題なく降り、今宵の宿は桧枝岐で綺麗な建物、風呂、13品の料理を満喫し盛り上がった。(山口、他)

10/14 尾瀬 燧岳

4時半に桧枝岐の宿を車で出て御池駐車場には20分で到着する。5:10に出発する。尾瀬らしいぬかるんだ道、木の根道を登る。広い広沢田代に出てまた樹林帯を登ると二時間で熊沢田代に着く。ここは池塘が散在し、遠くに平ヶ岳、越後三山、上越の山々、会津駒ヶ岳が一望できる。涸れ沢から尾根を横切り沢を上がって2時間で燧ヶ岳俎?に着き、さらに20分で尾瀬の盟主の燧ヶ岳、柴安?(2,356m)に着いた。9:45。頂上からは男体山を始めとする日光の山々、尾瀬沼、尾瀬ヶ原、至仏山と雄大な景色を眺め歓声をあげる。下りはメンバーの体力差も有り時間を要したが14時に御池に下山する。車で6時間かかり帰宅した。(山口、他)

10/21 長野 美ヶ原

病後のリハビリを兼ねて、長野県的美ヶ原に行きました。焼山沢コースから登るはずが登山道崩壊の為美術館上の山本小屋駐車場スタートに。4時間で王ヶ鼻を往復し素晴らしい眺望を楽しみました。(梶、吉田、他)

10/21 甲子山(1549m)～旭岳(1885.2m)

甲子温泉大黒屋から旭岳往復。

甲子温泉駐車場に7時過ぎに着。07:20に大黒屋温泉を抜けて登山開始。08:45に甲子峠分岐着。甲子山頂上に09:10着。上の方はガスが出て旭岳は見えない。少し様子を見て09:20に旭岳に向けて出発。坊主沼分岐を経て登り始める。途中で旭岳への道は無いとの看板があるが踏み後がしっかりしているのでそのまま進み、急な上り坂を藪漕ぎをしながら登る。登山道は虎模様のロープは張ってあるが滑りやすい粘土に昨夜の雨で濡れた落ち葉が重なり相当登り辛い。11:00に旭岳頂上(1885.2m)着。ガスの晴れ間に写真を撮って11:20に下り始め。甲子山頂上に12:40着。少し休んで来た道を下り14:20駐車場着。途中紅葉が綺麗。甲子山頂上までは登山者が多かったが旭岳には我々がこの日初で、下山途中で4名に会っただけ。折角来たので甲子温泉に浸かるが温泉の湯を川に流している為石鹸などが使えず身体を洗えない。(井上×2)

10/28 奥秩父 甲武信岳 鶏冠尾根

前日、午後から車で西沢渓谷村宮駐車場に入る。04:30に出発し水量の少し多い東沢を渡り、鶏冠谷右俣合出で15分夜明けを待つ。05:37に鶏冠尾根に取り付く。急登だがしっかりした登山道で1,500m位までは紅葉してる。ペナントも多く迷う心配はない。3ピッチ目から息切れが激しくなりピッチが上がらない。チンネのコル、第一岩峰、第三岩峰を過ぎて鶏冠山(2,035m)には09:54分に着く。下には広瀬ダム、左手には国師岳、前方のガスの切れ目に甲武信岳。先行の二人連れはシャクナゲに懲りて下山していった。一か所踏み跡を追って20分位ロスをする。シャクナゲだらけの道を3時間ちよいで木賊山に合流し甲武信岳(2,475m)には13:56に着いた。長かった!360度な眺めた後、戸渡尾根から徳ちゃん新道を下り駐車場には17:30に着き、計画より1時間短縮できたが13時間の山はきつかった。(山口)

10/28 東京 南高尾

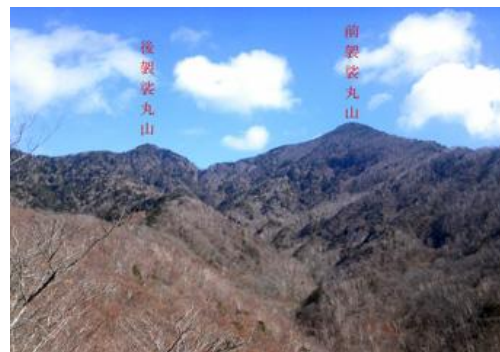
高尾山口～稲荷山～大垂水峠～大洞山～草戸山～高尾山口 普段とは逆コースにて歩くが草戸山からの上下があり5時間切るのは可能だが少々疲れる。(伊藤)

10/28 関東 上州 赤城山

黒檜山・駒ヶ岳に行きました。10月28日は群馬県民の日。行楽日和で、山頂ではのんびりお弁当を食べている人達が賑わっていました。(吉田)

10/30 後袈裟丸山

後袈裟丸山登山口の群界尾根登山口に06:45着。07時駐車場発09:30に後袈裟丸山頂上(1908m)着。最初の30分ほどは階段状の急坂を登りその後は尾根筋の緩い登りで頂上近くに少し急な坂がある。途中広葉樹のブナ、栲、白樺は殆ど葉を落とし林の中が明るい。楓は70%程葉を落とし少し真っ赤な葉が残り、唐松が丁度良い黄色に染まっている。09:45に下り始め写真を撮りながら降りて駐車場に11:40に着。群界尾根登山コースは登山口までの林道が荒れていて入り難くマイナーで他の登山者は最後に一人だけ会う。(井上×2)



11/3 四阿山～根子岳

吉田宅を朝5時に出発し菅平牧場に8時頃到着、入口で一人200円の入山料を支払った。的岩コースと上州古道コースなどがある鳥居峠から登る計画だったものの、鳥居峠まで歩きでは相当な時間がかかるようで、直接、四阿山へ向かった。のんびりと歩いてお昼前に山頂に着いた。山頂は360度見渡せ、はるか遠くの北アルプスは雪景色。(行ってみたいな)ところどころにある雪の上を滑らないように気を付けながら急いで下って根子岳へ上り返した。その後は、小根子岳から藪漕ぎや牛のふんがたくさん転がっているスキー場、ダボス、車道経由でPへ。人気の山だけあって、京都や神奈川、千葉ナンバーの車もたくさん止まっていた。吉田にとっては、海老原先輩に連れられ山スキーも楽しんだという根子岳は思い出の山、感慨深い山行だった。(黒澤、吉田)

11/3 広島 巖島 弥山

前日LCCを利用し広島経由周防大島近傍駅に22:30着、翌早朝まずは柳井の港まで5km先、琴石山を目指して行くが至近になると琴石山「ダラー」ぼいので急遽次の候補、「三倉岳」へ行くため岩国行き電車にのりながらいろいろ思案したが、バス時刻(2便/日)が非効率過ぎてパスし御馴染の「宮島 巖島」に行くことに変更下車後連絡船に乗船、巖島は相変わらず混雑している。巖島神社手前より大きく迂回してロープウェー手前より登山道に入ると静かな山歩きとなるが、中～上部の石階段に疲れがたまります。弥山(みせん)山頂はロープウェー客も合わり混雑MAXなので今まで行ったことのない「駒の林」という別の山?を目指す。道はしっかりしているので問題ないし、行き交う登山客も激減どんどん下へおりコルより今度は登り「駒の林」ピークまではすぐである。小休後連絡船よ

り遠望できる岩壁の方向に伸びる登山道を下る。楽しみにしている岩壁は樹林のすき間から見える程度で残念であるが、途中高差25m程の壁には登った形跡が見当たらない。巖島は神聖な島なので「岩登り」は禁止なのだろう！。巖島神社に近づくと盛大な祭り(神事)なので人混みを掻き分け連絡船に乗船、宮島口駅に着いたが、「沿線火災」で1.5時間足どめ、柳井の港に着いたのは17時となった、船着場で時間をつぶし、松山～周防大島「伊保田港」～宮浦実家経由から来た奥さんと合流、翌日は周防大島橋を撮影し、近郊の「ゆう温泉」で風呂に入り、岩国市内で食事後、私はJRで広島経由、白市～広島空港から帰京した。(伊藤)

11/4 長野 戸隠山

前泊し戸隠牧場駐車場6時出発。遊歩道を奥の院まで歩き、登山道に入る。蟻の戸渡りまではかなりの急登だ。すぐ息が上がり汗が止まらない。幾つか鎖場を越え蟻の戸渡りに到着。流石に立って越えられるはず四つん這いで通過。八方睨から尾根に、暫く行くと戸隠山頂。ここからガスが掛かり始める。アップダウンの尾根を分岐の避難小屋まで。高妻山まで行きたいが今回は此処まで。13時駐車場着目。帰りは観光客で賑わう鏡池から本院岳から西岳を偵察する。ダイレクト尾根なかなか面白そうだ。(梶、他1名)

11/10 秩父 伊豆ヶ岳～武甲山

急遽、武甲山へ行こうと調べたところ、どこの駅からも遠い、西武正丸駅から伊豆ヶ岳は直登できそうであることがわかり、正丸駅からスタートすることにした。コースタイムがよくわからず、とにかく急いで登り始め、行き会った方々にいろいろと教えていただきながら、伊豆ヶ岳に登頂。武川岳に行く人はあまりいないし登山道は落ち葉の絨毯で不明瞭だろうとのこと、コンパスと地図を頼りに進んで行ったが、行ってみると道標も多く無事武甲山にたどり着くことができた。素敵な紅葉と落ち葉の絨毯の中歩くことが出来てよい山行になりました。いろいろと教えていただいた皆様に感謝します。ありがとうございました。(黒澤)

11/23-25 大峯奥駆道、吉野～山上ヶ岳～八経ヶ岳

大峰山脈、世界遺産の奥駆道は長さが北の吉野山から南の熊野神社までの約90km。最高峰の八経ヶ岳(1,915m)を始めとして1,200m以上の山が40座以上もある。その間、吉野の金峯山寺から熊野神社まで8つの世界遺産の社寺、山がある修験道、登山道である。

11/22(木) 平井、朝霧山荘～東京～京都～橿原神社～吉野駅下車(23:49) 駅前は土産物屋のみで人家無し。駅内仮眠断られタクシー乗り待合所でごろ寝する。

11/23(金) 04:26 出発(300m)。見上げると遥か上迄灯が点灯してる。坂を幾分か上がると尾根上に道があり両側には社寺、旅館、お土産屋が延々と続く門前町なのである。中千本の世界遺産、金峯山寺(蔵王堂)は見事である、上千本～奥千本と登り金峯神社まで五つの木造社寺があるが、二時間のアスファルト、コンクリートの急坂登りも長かったが日の出を迎えるカメラマンも多かった。廻りの木も桜、桜、桜である。ようやく登山道になる。朝は晴れだったが百丁茶屋辺りからあやしくなり1,200m位からガスが掛りだす。昨夜の雨で木々も霧氷になっている。四寸岩山～大天井ヶ岳(1,439m)に登り、

そこから下ると五番関(13:50)が有り右に下ると洞川までは近い。そして行く目の前には有名な「女人結界門(山上ヶ岳への4方向)」がある。ここから山上ヶ岳の先まで女性は通過できない。ここから1時間半歩いた所の「今宿跡」で霧雨と眠気の原因を付けて幕営する(15:20)。17時半には横になった。

11/24(土) 04:43に出発する。快晴、気温-5℃。夜中の降雪で一面うっすらと白い。事前情報でアイゼンは持ってきてないので途中で引き返すか、山上ヶ岳から降りるか考える。長い鎖場を登り1時間歩くと洞辻茶屋、陀羅尼助茶屋とあるが、屋根付きの通路に小売店が数件と休憩所がある立派な長い建物である。07:35に山上ヶ岳(1,719m)に着く。一面に白い。世界遺産の大峯山寺、下に三棟の数百人収容の宿坊と建っている。この周辺の山を大峯山と称してるそうだ。遠くに八経ヶ岳が有り東には大台ヶ原の台高山脈が連なり、西は熊野古道の小辺路か。40分歩くと小笹の宿避難小屋に着くが、沢水が流れ、石積みのテント場も有り桃源郷の様だ。水を3.5ℓ補給する。明王ヶ岳～大普賢岳(1,780m)を過ぎると鎖場、梯子の登り下りとなる。行者還岳(14:24分)を過ぎ行者零水で若者が1時間掛って水を1.5ℓ汲んでいた。途中で捨てなくて良かった。避難小屋を過ぎなだらかな道を延々と歩き行者還トンネル上の奥駆道出合合流には17:00に着く。熊笹上に幕営する。長かった。

11/25(日) 3時前に起き、04:00に出発する。風が強い。1時間で聖宝ノ宿跡で後続の4人パーティに抜かれるが女性二人は運動靴である。ん？、良い根性してると思った。15分も歩くと斜めの木製階段と雪の斜面で登れなくなり言い合いして下山して行った。2時間で弥山(1,895m)に着き2度目の八経ヶ岳には06:43に着いた。急にガスが出てしまったので明星ヶ岳方面に向かい、弥山辻から天川村へ下降に入った。途中、倒木が多く難儀したが日裏山～栲尾辻～天川川合バス停まで9km、5時間要したが12:09に着いた。ほぼ全工程の1/3歩いたか？奥駆道は平安時代からの歴史があるが磁石の無い時代にどうやって熊野から吉野まで行ったのか？食料は。水は？どうやって戻ったのか？(山口)



11/23 奥武蔵 日和田山

西武高麗駅に集合し、日和田山へ。途中、ゲレンデを見学して、日和田山登頂。天候はとても良く家族連れも多かったが、山頂は風が冷たく身体が冷えた。駒高の広場で、日向ぼっこをしながら持参したバーナーで簡単な食事をして下山。たまにはこんなことも楽しい。(吉田、木戸、梶、黒澤)

11/24 奥秩父 二子山

両神山の冷たい水(沢)を求めて神流川金山沢へ行こうと八丁峠に向かったが、志賀坂トンネル手前の林道が閉鎖されており今回はあきらめた。さてどうしたものかと近くの二子山へ向かった。一般コースもそれなりの傾斜と岩のコースだった。西岳エリアと中央稜には多くのクライマーがトライしていた。

下山後は名水「毘沙門水」で水を飲んで両神温泉薬師の湯で汗を流した後、吉田邸へ帰宅。(吉田、伊藤、黒澤)
(倉尾登山口～一般コースで西岳山頂～股峠～祠エリア:中央陵～ロウソク岩～倉尾登山口)

11/25 上州 荒船山

上州の名峰 荒船山に行ってきました。内山峠から軽いアップダウンで2時間で鱸岩展望台 30分で山頂? あまり見所のない山でした。(梶 他1名)

11/26 鎌倉 紅葉偵察

寒さの3連休も明け、コタツTV情報では紅葉の便りも盛んなので、午後から鎌倉の紅葉偵察に行ってきました。永福寺跡-獅子ヶ谷-大平山-今台(百八ヤクラ)コルー覚園寺。(植田)

12/2 浅間山

前泊し朝7時浅間山荘駐車場発、なだらかな樹林を行くと火山館。硫黄の臭いが凄い。しばらく行くと、山頂への登り。風が凄い。気分は登山家。雪の北アルプスなどの眺望。右に登り前掛山着。13時すぎは駐車場に到着した。(梶)

12/9 南高尾山稜

例のごとく高尾山口より歩きは始める。榎窪山・泰光山をすぎ中沢山手前より道標通り相模川方面に降りる、道はしっかりしている程なく、舗装道に出る。道なりに歩き相模川を「名手橋」渡る。町並みを歩きT字路、右側つまり相模湖(駅)方面に歩くが、どうも変?段々意図とは違う方向に続いている。30分程歩くと交通往来多めの国道に、このまま道路を歩くのもいやなので、コンビニで「ビール」を買い込み、もと来た道のバス停で待ちJR・京王・橋本駅行きに50分乗車で駅につき山行を終えた。(伊藤)

※教訓 地図は必ず持参しましょう!

12/16 上州 子持山

朝都内を出発、9時登山口樹林帯の尾根から獅子岩を抜け山頂、14時過ぎ登山口に戻る。(梶、吉田)

12/22 伊豆が岳～子の権現

11月10日以来2度目の伊豆が岳へ、前回は女坂を登ったので、今回は男坂の鎖を登ってみた。鎖があると安心だ。前回は伊豆が岳から武甲山へ向ったが、今回は子の権現、大高山、天覚山へ向っておおよそ20Kmの縦走の計画。しかし、スタートが少し遅いか?。途中で道を間違え、大高山、天覚山はあきらめて前坂から吾野駅へ下山。次回は吾野から大高山、天覚山、飯能へ。その後、アイゼンの爪を磨いていただきにミザールさんに伺い、一杯ご馳走になって帰宅。(黒澤)

12/31-1 南ア 甲斐駒 日向八丁尾根(中途敗退)

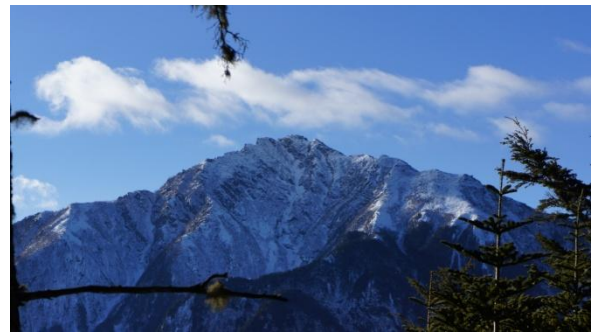
12/30 尾白川渓谷駐車場 前泊

12/31 計画書を提出して出発。先が長いのでゆっくりと歩すが、日向山まで登りっぱなしで結構きつい。日向山雁ヶ原山頂は白い砂浜で甲斐駒ヶ岳、八ヶ岳、鳳凰三山、富士山が望めた。雪がなくて水の心配をしながら、日向八丁尾根で大岩山へ16:20に到着。烏帽子岳まで3.3時間、先はあきらめて山

頂でテント泊、眺望はないが雪がある。夕食は年越しそばと餅。23:56 ラジオで最後の除夜の鐘をきいて年を越した。

1/1 4:30に起床しラーメンと餅を食べ、ハーネス、アイゼンなど装備して7:00に出発。ほどなく進むと伊藤のアイゼンが外れた。後に「行けないかもしれない!!」と。各自いろいろなことを思いながら大岩山へ戻った。八丁尾根縦走をあきらめ日向山へ手前から錦滝への急な登山道を下る。昼過ぎに錦滝に到着。林道経由で矢立石から尾白川渓谷駐車場に14:15過ぎに到着し帰路についた。(黒澤、山口、伊藤)

(20年前、坊主滑滝沢上部・坊主中尾根から遠望した「日向八丁尾根・烏帽子中尾根」また尾白川本谷廻行・鋸岳登行もあり懸案の計画を実践したが、当方の装備不良とルートの難易も手強い散々な敗退となった。すべてに甘さが露呈した結果である。(伊藤)



1/5 丹澤 大倉～三の塔尾根～宮ヶ瀬

奥多摩か西武線か丹澤か迷った末、丹澤三ノ塔へ行くことにした。先行する女性の後を離されないように登っていくと、11時過ぎに塔ノ岳についてしまった。とりあえず丹澤山へ向かい12時過ぎに到着。以前山口先輩が宮ヶ瀬に行っていたことを思い出し地図とにらめっこ。17時に着けるか?とスタート。相変わらず本間の頭で登山道を間違え本間橋の方へ進んでしまった。テープはあるが進む方向がどうも違うようだ。このまま、本間橋へ行こうか、戻ろうか考え、本間の頭まで戻って再スタート。急いで歩いて、何とか暗くなる前に宮の平バス停に到着することができた。正月早々で、バスが来ない場合はどうしたものか?心配しながらの縦走であった。(黒澤)

1/5 御坂 三ツ峠山

達磨石～三ツ峠山～河口湖

(山口他3名)

1/10 三浦半島 武山 - 三浦富士山

三浦半島南端の武山(200m) - 三浦富士山(183m)に行ってきました。/只今、武山頂上。薄ら寒い武山は、午後から棚引雲が密集してきて、残念ながら駿河富士は望めませんでした。前回、村内からの取付探しに手こずったので、今回の別取付探しには、ヤマレコマップのGPSを利用しました。初めてのGPSは、前までの取付探しは何だったのかと思うほどの安直性でした。昼飯を済ませたら武山富士に向かいます。三浦半島の南域は低山で、民家の横路取付が多く、前回は手こずった。今回はヤマレコマップのGPSを使って、取付を割り出してしてみた。初めて使ったGPSの効力は凄く、見通しが悪く山座同定の効かない雨雪や夜間の現位置確認には、絶大であると感じた。馴染みの武山頂上を踏み、三浦富士に向かう。同様に馴染みの武山富士に出て、縦走下山する。今回は主稜線間を除き、別ルートを探った。(植田)

1/11 三浦半島 大楠山

明日からの寒気を前に青天で富士山も綺麗なので、三浦アルプスシリーズで昨日の武山より北側の大楠山に行ってきます。三浦アルプスシリーズの大楠山無事下山しました。南西林道からの登山で南面古道を下りました。高層雲の綺麗な中、富士山が綺麗に見えました。(植田)

1/11 栃木 鹿沼 鳴蟲山

鹿沼市の鳴蟲山(725m)に行ってきました。(日光市の鳴蟲山(1103m)とは異なる山です。)

古峰ヶ原街道下久保林道から鳴蟲山往復。車で鹿沼 IC 経由して鳴蟲山登山の入口の下久保林道に 09:00 に着く。09:10 に林道を歩き始め 09:40 に登山口へ。車高の高い 4WD ならこままで入れそう。植林された見晴らしの無い急坂の階段を登り 09:55 に第一の鉄塔へ。緩い上り坂を行き、10:40 に第二の鉄塔へ。10:45 に鳴蟲山頂上着。山頂では祠があるだけで見晴らしが全く無いので日溜まりの鉄塔まで戻って休憩。11:00 に下り始め駐車場に 12:10 着。全体に全く雪は無かった。山頂で反対側から来た一パーティに会う。このルートは林道から 30 分程のコースなので我々は選ばなかったが林道が閉鎖され 1 時間程歩いたそうです。(井上×2)

1/12 北八ヶ岳 北横岳

12 日北横岳はスキー・スノーボー客多く、登山客にも人気があるようだ。北横岳よりも先に行くとは人は少ない。北横岳から亀甲池への下りの腰高までのラッセルには参った。梶リーダーが先頭を切って進んでくれたので、なんとか前進することができた。双子池に幕営し早々に就寝。他に 3 張幕営。(朝出発～9 時すぎピラタス蓼科(ロープウェイ乗り場)～10 時 30 分のロープウェイにて山頂へ。準備をして 11 時出発～坪庭～北横岳 12:30～亀甲池 13:40～双子池手前に幕営 14:40

13 日双子池から雨池へ向かったが、どのルートを歩いたのか不明?。雨池ではスノーシューやスキーで遊んでいる人たちが数人いた。雨池峠まで行くと登山客も多く、縞枯山荘は多くの人があいた。ほどなくロープウェイ乗り場について下山。前橋経由で帰路に着いた。今回はほぼ雪道を歩いたが雪はサラサラだった。手前は人は多いものの、少し奥へはいるとゆっくりと出来る。山頂からの眺めもとても良かった。(黒澤、梶、吉田)

1 月 12 日 朝方、川越の吉田宅を出発し 10 時過ぎロープウェイ駐車場着。たくさんのスキーヤー、ボーダーと共に山麓駅。準備を済ませ登山スタート。山頂までは良く踏まれ目印も多くアイゼン、ピッケルも要らないぐらい。スキーヤーもついでに登頂していた。昼過ぎには山頂に着いた。大勢の登山者が眺望を楽しんでいた。我々はそんな喧騒を離れ薄いトレースを頼りに亀甲池まで下る。樹林帯を抜け 15 時双子池ヒュッテに到着。テントを張る。先客も数名。防寒には注意したが、寒くてあまり眠れず。

13 日 準備を済ませ、7 時出発。雨池までまた薄いトレースを頼りに歩くと、吉田の携帯に川内先輩の訃報の知らせ。予定変更し早めに帰る事に。縞枯山を過ぎ 13 時山麓駅着。帰りのロープウェイからは、川内先輩も何度も登ったであろう白い北アルプス、中央アルプス、八ヶ岳の姿。吉田の目には涙が浮かんでいた。心よりご冥福をお祈りします。

1/13 千葉 房総 梨沢 大塚山 ～ 鋸山

10:46 只今、房総アルプス南端保田見。房総アルプス梨沢大塚山(234m)。フェリー往復切符なので、時間余れば鋸山に行きます。16:30 只今、鋸山下山しました。(植田)

1/13 栃木 大平山・晃石山

東武新大平下～大平山～晃石山～東武新大平下
※ 午後から仕事 (伊藤)

1/19 飯能アルプス 吾野～飯能

前回は正丸駅から吾野駅まで縦走したので、今回は吾野駅から飯能駅まで縦走。吾野駅で観光案内の方から声を掛けられ、「飯能まで」と話すと、「5 時間位なので丁度良いですよ。」とのこと。お昼頃に着くのかと思いながらスタート。下り傾向ではあるものの大高山 493m、天覧山 445m、久須美山 260m、永田山 277m、多峯主山 271m、天覧山 195m といくつものピークがあった。飯能方面からトレランで来る人もいる。真似て途中走ってみたものの、足が重くすぐに歩きだした。多峯主山はきれいな富士山を眺めることもでき、昼時だったためバーナー持参で食事をしている人も多かった。次回は芦ヶ久保に行ってみようかと。(黒澤)

1/20 御坂 三ッ峠 大幡川 四十八滝沢(敗退)

初狩～(大幡峠)～宝鉾山(徒歩 1:45 でした。)～四十八滝沢(初滝)～宝鉾山～上大幡=都留市
初滝、氷つながっていても～またしても装備不良のため敗退、情けない山行いやはや!(伊藤)
※今年は降雪・雨量とも極小で氷張りが今二、装備も「張り」がダメ、いろいろなことを思い浮かべ、自らの「真価」を夢想、下山路は何故かちょっと楽しかった。

1/20 栃木 雨巻山 (山口他、7 名)

追悼集

前野 忠保

海老原 道夫

川内 盛雄

大エビさんを思う

2019.01.27 東京朝霧山岳会 会長植田宗男

1 最後のメール 2018.02.06 11:46

お早うございます。入院生活は、如何でしょうか。
一昨日は大エビさん抜きの新年会で精細を欠き、お客人の木村さんも若干寂しそでした。今年の朝友ハイクは、5/20(日)高尾山となりましたので、是非ご参加できるようお祈り申し上げます。 朝霧植田

2018.02.06 12:15

有難う。呆れたもんです……。皆さんに申し訳ない。あと1週間位です。 大エビ

2018.02.06 18:16

了解です。 お身体を大切に。 植田
※これが48年間お世話になった大エビさんとの最後の連絡となってしまった。

2 追悼ハイクの実施

5/20(日)の第9回朝友ハイクは、5/2逝去された大エビさんへの哀悼の意を込めて、「海老原道夫氏高尾山追悼ハイク」と銘打って実施された。

当日は前日の雨も上がり、頂上直下の零れ陽光溢れる樹林帯広場に於いて、大エビさんを偲んでの酒宴が催された。

酒宴後に、大エビさんを追悼する寄書と全員による写真撮影が行われた。

3 朝霧入会と初めての大エビさん

私は卒業研究の際にお世話になった研究所の労働組合山岳会で、丹沢の沢登りや冬のハヶ岳等の本格的な山登りを教えて貰ったので、著名な社会人山岳会に入会したいと考えていた。特に指導してくれた人が東京岳人倶楽部の旧会員だったので、岳人クラブか白稜会が候補だった。

しかしその後に入会について相談した人が山学同志会の人だったので、その人の薦めで当初存在も知らなかった朝霧を知った。朝霧も同志会も実家の平井の山岳会であることに驚いた。集会を見学に行った他の山岳会は、概ね喫茶店や会長宅であったのに、朝霧は平井の廃屋のような民家を持っていたので驚いた。そこで初めて大エビさんに会った。大エビさんは、優しいような眼をした声のでかい「小ぢゃな人」だった。

4 大エビさんの武勇談

新宿団体保険事務所での集会の後は、必ず新宿西口の小便横丁での焼鳥屋の飲会に行った。集会では大人しい山中さんが、飲会になると一変して本領を發揮する。混み合う一階の店員に、「二階に上がるヨ！」と声を掛けると、ズカズカと皆を引連れて二階に上がる。二階に着くと、即座に座敷机を並べて20人程の宴席を作る。「ウエダ！取敢えず、ビール5本と焼鳥。適当にタレ50本と塩50本頼め！」が、常だった。

大エビさんは座ができる横座にでんと座り込む。そして、「俺なんかサア・・・この前」と言って、いつもの武勇談が開始される。私は大エビさんの話を聞き逃すまいと、新人乍らも大エビさんの近場の席に割込ませて貰う。毎回同じような話になるのだが、堂々巡りでなかなか全内容は掴み切れなかった。

5 ……結果、大エビさんのトレースを辿ることになる

大エビさんは、都岳連の海外委員長を務めた。その後西ちゃん(西原)も救助隊長を務めた。私も二人の後を追って、遠征の布石にもなると海外委員を務めた。山岳指導員についても、最初は大エビさんが指導員になり、続いて西ちゃんが資格を取り、次いで私も指導員になった。指導員審査ではオールマイティ能力を要望された。二人とは違い私はスキーが苦手であった。審査前に、大エビさんに頼んで越後へ山スキーに行き、大エビさんの特訓を受けた。審査では他の項目が殆どトップだった小生も、懸案の山スキーがネックになった。それでも審査員であった大エビさんの意向か、お陰さまで何とか及第点は取ることができた。しかし約20名の受審者のトップにはなれず、朝霧顔潰しの2番で終わってしまった。大エビさんは、「これら都岳連に確固たる朝霧」を位置付けた人であった。

6 朝霧遠征の先鞭をつける

朝霧の遠征は、1967年の大エビさんのヒンドウラジ遠征を皮切りに、翌1968年の福岡さんのコーカサス遠征、1971年の高山/小エビさんのパンジャブヒマラヤ遠征と続いた。我々もそれに続かんと1976年に朝霧山岳会カラコルム遠征隊を編成し、バインターブラック峰を目指した。この遠征の流れは、その後の1982年ボイオハグル・ドゥアンアシルI峰(ウルタルI峰)への朝霧山岳会カラコルム遠征隊へと継承されて行った。しかし残念ながら、その後朝霧山岳会から遠征隊は出ていない。

7 正月剣岳集中合宿への大エビさんの参加

バインターブラック遠征のお礼を兼ねて、会の正月合宿に剣岳集中合宿を企画した。1978年の正月合宿は、16名による早月尾根本隊に西ちゃんと、小窓尾根隊に英ちゃん(吉田)/ヤマ(山口)/植田の4名の遠征メンバーを配分して、力量溢れる楽しい合宿とした。この合宿に、大エビさんも久々に参加してくれた。入山アプローチが一緒だった大エビさんのその山姿は、嬉々として誇り気だったのが印象的であった。

8 剣岳八ッ峰合宿の緊急連絡先を依頼

翌1979年正月は次期朝霧の中堅育成を考えて、剣岳八ッ峰~小窓尾根下降を企画した。この山行の難しさを考え、もちろん緊急連絡先は大エビさんをお願いした。大エビさんはこの山行の困難さを承知の筈なのに、平静に了承してくれた。下山後一番に、心配している筈の大エビさんに連絡を入れた所、返事は「ご苦労さんでした。」の一言であった。その一言がやけに嬉しく、そしてまた誇らしかった。この遠征後の弱体朝霧の次期中核育成を意図した一連の剣岳合宿は成功で、メンバー5人の内3名は次期チーフリーダーに、また他の1名は小生と一緒に2度目のカラコルム遠征のメンバ

一になった。ずっと気になっていたこの時の緊急連絡先依頼について、後日話を伺ってみた所、大エビさんからの答は「ムネなら、遂ると思ってたヨ。」であった。見せ掛け答だったのか、真意は不明である。

9 朝霧旧友の集い

準備が煩雑な朝霧祭も行われなくなり、一時代を画した先輩とも次第に疎遠になってしまったので、「朝霧旧友の集い」と銘打って、朝霧関係諸氏を対象としたハイキングを企画した。この第一回陣馬山ハイクの際に、参加者からの運営カンパを募った所、大多数の賛同を得る事ができた。その後この企画は朝霧山岳会の定例行事として9年間も継続し、また現在ではOB会からの支援金まで受ける程に認知されるようになった。この企画については、常連参加してくれているOB会員でもある大エビさんの意見を、OB会との兼ね合いも含めて、率直な意見を聞いてみたいと思っていたが、無理な話となってしまった。

10 仲人依頼

二度目の朝霧遠征隊で負傷した小生は、遂に結婚することを決意した。もちろん人生の節目、お願いしたのは大エビさんであった。私の前にも、英ちゃん(吉田)やヤマ(山口)も仲人をお願いしていた。遠征仲間では最年長者であった小生も、大エビさん同様に会のメンバーと結婚できた。この御恩も、息子さんの昭坊の仲人役で、何とか恩返しすることができた。

11 谷川岳での行方不明

「大エビさんが下山して来ないとの連絡が入ったんだけど、植田さん行けますか？」ヤマからの連絡が入った。単独で谷川岳に入ったとのことである。ルートからすると即危険な状態でも無さそうだが、とにかく連絡が取れていないことが心配である。自分も現場に入りたかったが、状況が不明確な中で主要メンバーが全て現場に入り、現場だけで処理できなかった場合には全く対応不能になる。小生は、本部として残ることにした。英ちゃん/ヤマが先発隊として現場に入り情報を収集し、植田/西原が本部に残り次の対応に備えるという考えである。先発隊は装備や資金も不十分なので、1-2日しか持たないことになる。現地からの状況報告のもとに、即第2弾の不足補充サポート隊を出す。その後、状況に応じて本隊を出すという作戦である。無事帰還した大エビさんにその後話をする機会があった。その時の話をすると、大エビさんから「ムネさん、正解だネ。同じ立場だったら、俺もそうすると思うよ。」との答だった。珍しく褒められ、いくら大エビさんに近づけた感じがした。その際の連絡メールです。

2015.04.27 07:45

良かった！！です。

板橋辺りで連絡受け、守/木戸を降ろして山荘に寄り朝ごはんです。帰宅して、出社します。お疲れ様でした。 山口

2015.04.27 08:12

朝霧関係各位殿

お疲れ様です。有難うございました。

昨夜、01:00の「ヤマ」とのTel連絡を最後に、「大エビ」含めの通信連絡は終了して、早朝に備え当方も寝ました。朝

は04:00起床して、体制表と第二次出動計画を作成しておりました。朝一で、大エビ奥さんからの一報が入り、次いで「大エビ」と直接Telして、「無事」の確認を取りました。熊穴小屋ビバーク、携帯通信不能だったとのこと、ケーブル駅に向かっているとの話でした。警備隊への先行連絡だけが心配ですが、西チャンには確認連絡を取りましたが、大丈夫ですよね。・・・再確認したい。

また連絡情報を入れた先には、当人から「無事」の連絡を入れるように再度お願い致します。「まあイイ主義」に準じて、緊張感を失っていた自分を反省しています。

今回の俊敏な対応に、感謝申し上げます。 植田

2015.04.28 09:06

朝霧の捜索隊の皆様といかれた爺さんを心配して下さった皆様に。勿論その要になってくれた宗さん皆さんに、ご迷惑を掛けました。月曜昼近く帰宅しました。改めて山口君達4人の敏速な行動には、ビックリやら頼もしいやらです。そうです。もし私が小屋で夜を過ごしたのでなかったら、本当にありがたいタイミングだったのでした。頼もしい限りです。結果は私の足の足の遅いのと、思いもかけないあの辺りでの携帯の圏外に慌てた結果でした。詳しくはお会いした時にお話しますが、お騒がせしまして申し訳ありませんでした。尚、帰りがけに警備隊の小屋に寄りましたが無人でしたので、下山届を出してきましたが変わった雰囲気はありませんでした。お詫びと報告まで。 皆さんによろしく。

大えび

2015.04.28 19:44

ありがとうございます。締めのお詫びと報告をして貰え、少しは罪滅ぼしができたみたいです。後は朝友の会で、口で報告致します。重ねて、ありがとうございます。

大えび

12 カラコルム行脚

大エビさんのカラコルム行脚は、約20年前の'99年ヒンドゥー・ラジから始まった。自営仕事も安定し、都岳連仕事にも復帰した頃で、山情熱の復帰への思いもあったのだろうか。資金的な余裕ができたのか、その後数年ごとにカラコルムに足を運ぶようになった。山域もヒンドゥー・ラジからフンザ、ナンガパルバットからK2、そしてシスパーレ/バトゥラへと広がって行った。行先から推測すると、最初は情熱を掛けた山、次に憧れの高峰、最後は我々も目指した未知の山のような山。只、全て単独トレッキングだったのが、不思議である。多分、歩速から行程まで、自分のペースで行いたかったのであろうか。以下のメールは、'15年のシスパーレ/バトゥラ巡りの最後のトレッキングの際の、大エビさんと私とのやりとりである。

2015.06.03 13:22

6月に入り、そろそろ出発の頃とご推察致します。コンディションの方は、如何でしょうか。なかなか万全な体調で事に挑めることはありませんが、御身大切に行動なさって下さい。4月のネパール大地震以後、国内も噴火や地震等で、今ひとつ落ち着かない感じがします。カラコルムも、地形や足場が不安定であることが懸念されます。特にご留意頂くようお願い申し上げます。 朝霧植田

2015.06.03 18:01

ありがとう。来週の月曜に出ます。さすがに、あれこれとっ散らかっています。これでも普段、仕事やっていると今更ながら気がつきます。まあ、70点ぐらいで逃げ出そうと思っています。さっきは携帯が勝手に、「宗さんから電話だよ」と知らせたので電話を入れたのです。時々、やられるのです。行ってきます。 大えび

2015.06.30 18:05

昨日の夕方帰宅しました。珍しく天気恵まれて、ついていました。フンザ方面は、崖崩れによる湖の渡しやら何やかにやで、人氣が落ち静かなものでした。バルトロ方面は、かなりの隊が入ったようでした。先ずは、帰国の報告です。 大えび

2015.06.30 19:08

ありがとうございます。無事に帰ってきました。現地は、大きな崖崩れやタリバーンやらの影響で、登山者が居なくなり踏跡も消えかかっていたりで、なかなかでした。詳しくは後日報告します。 大えび

2015.06.30 19:38

お疲れ様でした。ご無事で何よりです。ご連絡頂きまして、有難うございます。大きな事故もない模様、大変に嬉しく思っています。私の古い記憶等、フンザも大分観光化されているので笑話話ですが、あの「桃源郷フンザ」の佇まいは今でもハッキリと思ひ出せます。次回のお話を、楽しみにしております。・・・ゆっくりとご休息下さい。 植田

13 梶山/山中両氏追悼ハイク

梶山さんと山中さんの追悼ハイクを、筑波山で朝友ハイクとして行った。頂上での追悼酒宴の後、皆で寄書を行い両氏を偲んだ際に、大エビさんから「ムネちゃん、俺の時もそんな風に仕切ってくれるのか？」と訊ねてきた。すかさず小生は答えた。「勿論ですよ」そんな話が、現実となってしまった・・・。

14 大エビさんを偲び一人ハイク

1

大エビさんが亡くなって1ヶ月が経ったので、大エビさんを偲び一人「大山-三峰山ハイク」に行ってきた。雨上がりの登山道、ハイカーも居ない。途中の杉の樹林帯。追悼高尾山ハイクと同じように、「零れ陽光溢れる樹林帯と爽やかな涼風」。そうか、人は有機物。火葬すれば、炭酸ガスと水に分解される・・・。黄泉の国があるかは不明だが、これら分子に分解されて地球上に残ることは確かなこと。大エビさんが、「零れ陽光溢れる樹林帯と爽やかな涼風」になって、自分と一緒にいることを感じた「同行二人」の単独ハイクでだった。二度目の月命日にも、再度一人ハイクで大山修験道の別ルートに行ってみました。

15 追悼高尾山ハイクでの小生寄書弔辞

恩師大エビ様へ

大エビさんを手本に海外委員会に入り、大エビさんを手本にカラコルム遠征に行き、大エビさんを手本に会長を務めています。小生70歳。もう苦言を呈してくれる人は居なくなりました。文子との仲人、ありがとうございました。在れば良し、無ければそれも良し、黄泉の国。

16 大エビさんの生き様を思う

山登りをやり、都岳連もやり、家庭も持ち、独立して仕事も始め、道楽で釣船も持ち、隠居前に独りトレッキングにも行く。自由人である自分の価値観を第一に、自分のバランス感覚と才能を信じていた大エビさん。訊ねてみた所で、「宗さん、ココよ！ココ。」と言って、自分の頭を指し示すだけでしよう。その時代状況と自分の立場を冷静に察知して、自分の力を発揮できる場を求め続けていたのだと推測します。一徹主義の不器用な自分には真似のできない、大エビ流の感性に富んだ生き方であると思います。自分も大エビさんから学んだこととして、今後の人生に悔いを残さないように、参考にして生きたいと考える。 合掌

前野さんを思う

2019.1.27 東京朝霧山岳会 会長植田宗男

前野さんの印象

朝霧に入会して前野さんの名前を知ったのは、朝霧山岳会の会長としてであった。入会当時、朝霧改革の立役者的存在と大エビさんを凌ぐ、朝霧山岳会の会長とはどんな人なのかと思っていた。副会長であった大エビさんに尋ねてみたところ、「仏様みたいな人だよ。」との答であった。その後時間が経ち、当方も会長を務めるような立場になり、山荘やOB会の件について直接お話しする機会を得たが、全く我欲のない方で、当方のような自動車業界の修羅場に生きてきた者には、次元の差を感じさせられた。そんな範としていた大エビさんと前野さんを、昨年は相次いで喪ってしまった。今後も、そんな朝霧の先輩方に育てられたことを忘れずに、事にあたらたら良いなと考える次第です。 合掌

2019年1月27日 朝霧総会を終えて

東京朝霧山岳会 会長 植田宗男

山に真直ぐな川内盛雄君を偲ぶ

2019.1.27 東京朝霧山岳会 会長植田宗男

1 カワウチの訃報を知る

「房州アルプス-鋸山へのハイキング」途中の東京湾フェリーの中で、「ヤマ」からのメールでカワウチの訃報を知る。

2019.01.13 06:08

本日、00:17に亡くなりました。

2019/1/16 12:00からの家族葬告別式のみになります。葬儀、火葬参列の有無連絡下さい。

急遽、単独房州アルプスハイキングを、大エビ時同様に「カワウチ同行追悼単独ハイク」へと切替える。

2 同行単独ハイクでカワウチを人となり偲ぶ

入会した時に彼に献上したアダナは、「蓄膿のミッキー安川」であった。何故って、それは彼の「植田スアーン」の特徴あるフレーズからである。舌が長いのか短いのか、彼は舌余りな喋り方をする。入会当初からガタイはイイが、脳みそはサッパリだろうと思ってたら、以外にチーフになったら立

派なもので、メンバーを前にくさりのスピーチをこなしていた。彼の特長は何と言っても、誰にも負けぬその人柄にある。決して他人を押し退けたりしないが、自分の努力は怠りない一途な性格である。何かと言えば「植田スアーン、それ違うんじゃない」と、小生に対して歯に絹着せぬ異論を唱えてくる。彼の口を借りれば、小生の言動は思慮に欠け過激過ぎとのこと。一理あるかも知れない。

3 川内入院見舞とその後のヤリトリ

2018. 01. 11 川内入院見舞文

入院したと聞いて、驚きました。長い会話は無理と聞き、喋り好きな「西chan」「カメ」と一緒なので、当方の分は手紙にしました。体が楽な時にでも、読んでみて下さい。脳ミソの中まで筋肉のような川内が病気で入院、にわかには信じられませんでした。川内と言えば、装備の改造上手。ザックから衣類まで、ジッパー類には必ずシュリング輪環の取付。小生も確りと、真似させて貰っていました。それに加えての裁縫、そして料理上手。「川内、そんなにできるんなら、女房イラズだな！」の問いには、「植田スアーン、そればかりは、違うんだな。」の答え。そんな川内の結婚式、参列や司会経験の多い小生も、初めての人前結婚式だった。川内らしいアイデアで、よき同僚に恵まれ愛されている、朝霧とは別の人となりの川内を見た思いでした。

4 ヤマと川内との滝沢リッジ。

上部で滑落で中指を骨折した川内に、「川内、固定すれば凍傷がヤバイけど、どうする？」の問いに、空かさず、「固定して欲しい。」との答え。バインター遠征後の会再統一を図っての剣岳シリーズ企画。初年は、早月尾根隊と小窓尾根隊に分かれての集中合宿で全員参加を図った。また翌年は、八ッ峰-小窓下降の次期主力メンバー育成の合宿。春のルート偵察、秋の荷上山行、そして冬の本番合宿。厳しい企画であったが、確りとやり遂げてくれた「カメ、川内、マガイ、猪八戒」。小窓尾根下降時の剣尾根をバックの五人衆写真が大好きだ。その後、このメンバーの3名が朝霧のチーフリーダーとなり会を引き継いでくれ、また他の1名は当方と次のボイオハグールの遠征メンバーになってくれ、小生の自信のベースとなっている。

体調が良くなったら、またこんな楽しい話を語り合いたいネ。待ってます。

「川内、ガンバーッ！」

PS：ほんの気持ちで、焼け石に水でしょうが入院費の足しにして下さい。

2011 パキスタン カラコルム 記

6/17~7/7

海老原 道夫

前回2009年のヒマラヤ行きは、本当の所、バルトロ・コンコルディアに行きたかったのだが、資金不足で残念ながらナンガバルバット周辺のトレッキングで締めざるを得ない事となったのだが今回は何とかかなりそうなので、いつもの通り半年位前から周囲に「行くぞ」「行くぞ」と言いまくっていると何となく認められて来たようなのでついに実行した。

前回は6月1日出発で行動したのだったが、残雪が多く大分行動に制約を受けたので、今回は6月17日発とすることにしたが、残念ながらコンコルディアに登りつく頃に雨期に入るタイミングとなってしまった。

ガイドは前回と同じく「シャー」だったので、下山後他のガイドは「シャー」と組むと降られるから、今度は俺と、と売り込んだが多分無いと思うし、もう歳だし、資金も無理だろうな。

とにかく6月17日発のPIAでいつもの通り1人で出発した。翌6月18日、スカルドへの国内便は、飛びそうなので私の搭乗手続きを終らせたが、ガイドのシャー分のチケットが取れない。この国の予約の仕組みがよく解らないが、とにかく外国からの予約が優先するらしい。

仕方なく、私だけが飛行便で、シャーは陸路をとる事としたが、私としてはシャーの大きい方の荷を預かり、スカルドまで1人旅をする事になった。所で私はシャーの荷物を預かるなんて思っていなかったで、その形も色もあまり良く覚えていないので、ターンテーブルからうまくおろす自信が全然ないし、イスラマバードから出る国内線は何本もあり、おまけにこの国の決して親切とは言えない案内で、スカルド行きの便をキャッチするのは、ずいぶん眼の色を変えていなければならない。案内板は出発時間を過ぎても何の変化もないし、入り口のカウンターに居る案内係もロクな返事をしない事3時間、「今日のフライトはキャンセル」だと。またこれ

だ。さあ私はどうすれば良いのだ。取り合えず公衆電話を見つけてナジール事務所に電話して、シャーとの連絡をつけてもらって合流しなければ、ニッチもサッチも行かない。この国でガイドとバラバラになったのは今日が初めてなので全く困った。初めから1人なら別に困らないが、合流しなければならぬとなれば全くやっかいだ。

ジタバタしたあげくシャーは未だゲートの外で、機が飛ぶまで待っていたので何とか合流する事が出来た。そしてその日はホテルに戻って翌日もう一度飛行便へチャレンジだ。何と無駄に労れた一日だったのだ。

翌18日はスカルド便は遅れながらも飛んだのだがシャーのチケットは相変わらず取れず、私も前日のドタバタに懲りて自分だけ別行動するのはやめて、シャーと共に陸路をとる事にしたが、同行のアメリカの青年が無事に飛び立つのを確認してからの事なのでスタートは午後過ぎになってしまった。

それから2日間 例のカラコルムハイウェーと呼ぶ超デコボコ道を激走し、スカルドへ着いたのは20日の夜10時過ぎとなった。

6月21日（5日目）アスコールへ

さっさとアスコールへ向かいたい所なのだが、今回の目的地は中国・インドとの国境に接近する位置なので、軍のチェックを受けなければならず、シャーは朝からその書類作りでナジール事務所のスカルド出張所(それが有るのを私はしなかった)と打合せたり大変だったようだ。私も出張所に行ったり、軍の事務所に行ったりして、結局アスコールへのジープに乗り込んだのは昼になってしまった。また今日も出発が遅く、そして到着は大残業のパターンなのだ。

アスコールへのジープ道の後半は、私の知っているパキスタン山岳道路の中でも1級品の凄さだった。落っこちて当たり前の崖に切り込んだ道をスイッチバックを繰り返したり、吊り橋を渡ったり、面白がっちゃう以外やりのないルートだった。ジープは2台だったが、私が乗っていた方の

1台は、途中までもう1台を追い抜いたりして勇ましかったのだが、最後の登りの前でクラッチの具合が悪くなりストップしてしまった。シャーの判断で目的地まで、もういくらでもないのに、1台分は人力で運んでしまおうと言う事になり、暗い中で大騒ぎで梱包して各々順次、人間用の踏み跡に登って行く。私も登る訳なのだが自分のサブザックに入っているライトはほんの手元用の小さい物なので足元が良く見えない。それでも無理して5分ほども登っていると、突然身体のバランスが取れなくなり、すごく酔っ払ったように、全然立っていらなくなってしまった。自分でも何の事やらさっぱりわからないまま道から転げ落ちてしまい立つことも出来ない状態だった。飛んで来たシャーに助けられ登った2倍も時間をかけてやっとジープ道に戻ったが、全然歩けないので、健在のジープが荷をおろしてから迎えに来るまで近くにあった陸軍の建物の部屋に入れてもらって寒さ(そのときはとにかく寒く感じた)をしのいだ。

アスコレにはずいぶん遅くなって着いたが何せフラフラだったので時間を忘れてしまった。

6月22日(6日目) ジョラ 3200mへ

昨夜は死んだようにクィックスリーピングしたので、朝まで1回も肩の痛み等で眼覚める事もなく、良い気分で起きる事が出来た。アスコレからの道は、今までの山のように村はずれからいきなりの急登と言う事は無く、ピアホー河への廻り込む時の岩尾根までは、ひたすら長く坦々とした道だった。おかげで昨日までの毎日パニック続きの変な日々から自分の足で身体を運ぶ健康的に労れる日々への移行するアイドリングとしては丁度良かった。出合いの岩尾根を乗り越えてからピアホー河を1時間少々遡って吊り橋を対岸(左岸)に渡るが、かって朝霧の西原、植田、山口、等のバインターブラック隊は、そのまま直進してピアホー氷河に入って行ったのだ。私は対岸を今度は30分少々下ってジョラのキャンプ地に着いた。

ジョラには他の隊も居て、何となく3~40人位の人々がざわめいている。もっともそのうち10人位は私の隊のポーター達だが、—— トイレもある。

シャーが携帯のメールで1週間ほど先行している日本の木村、長谷川隊のガイドと連絡がとれ、順調に行っているとの事だった。この国の携帯も大したものだ。

6月23日(7日目) バトルムへ

本来なら今日はバイユまで足を延ばし、その翌日はバイユで滞在するスケジュールになっていたが、シャー言うには、バイユはあまり良くないので、今日は途中のバトルムまでとし、明日早くバイユ入りした方が良いという事なので、その通りにする事とした。ピアホー河とバルトロ河との合流附近に戻り、そこからピアホー氷河の奥にラトックのI峰II峰を見出す事が出来た。朝霧隊の頑張ったバインターブラックは、その奥にあるので残念ながら見る事は出来ない。いづれも7000m オーバーの高峰で、いかにも鋭く立っている。またすぐ近く、バルトロ河の対岸には、6000m オーバーの鋭い岩峰が氷をまとって突っ立っている。名前はシャーから教わってのだが忘れてしまったが、いかにもカラコルムの前衛峰らしく岩と氷の山だった。

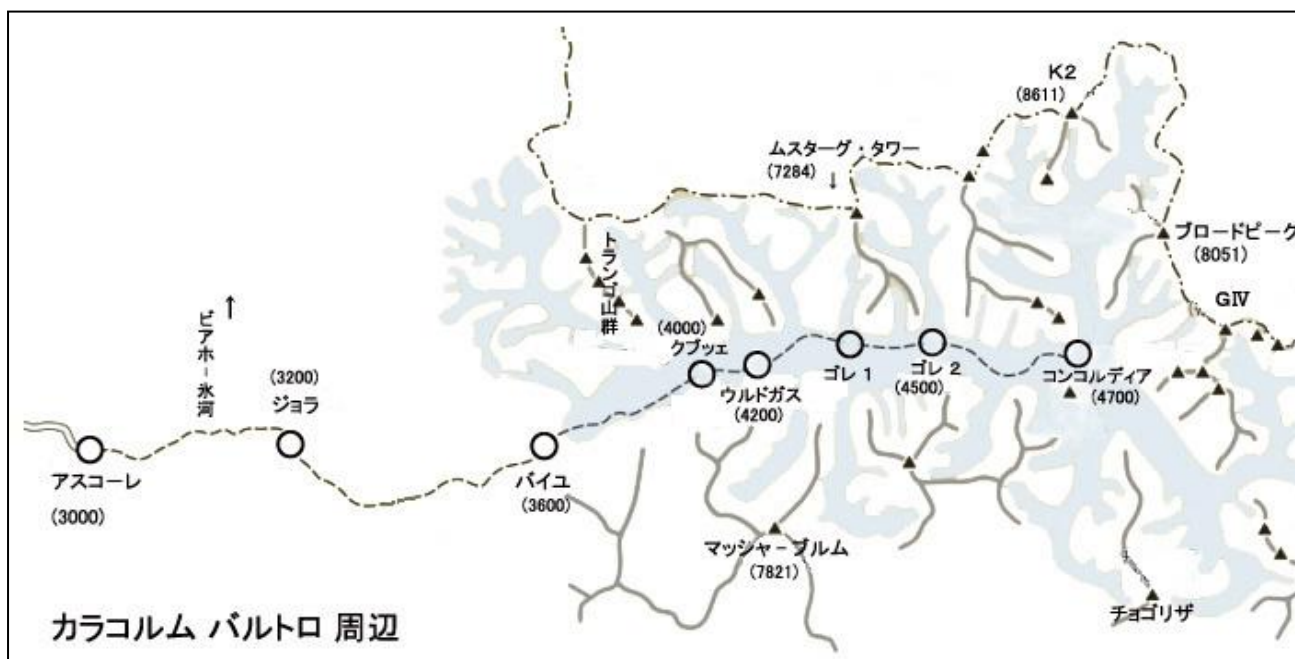
それらを眺めつつ平坦な道を進むと昼前後には林に囲まれたバトルムのキャンプ地に着いた。ランチを済ますと、軽い昼寝のつもりでキッチンテントでゴロンと横になったのがうっかり本寝となってしまう、ポーター達のランチを多めにジャマしてしまった。あやまりながら自分のテントにもぐり込みまたまた爆睡してしまい起きるとディナーだった。

6月24日(8日目) バイユ 3600mへ

今日も半日行程なので午後2時前に、おおむねコースタイム通りにバイユについたが、びっくりするほど人が多かった。私1人の為にでも10人のポーターが必要なのだ。後で聞いたはなしでは木村・長谷川隊は80人もポーターが必要だったの事なので、例えば登り下り各2チームがここに居ればもう200人以上の人が居て当然なのだ。計算すれば解ることもこの山の中でこの人数を見ると逃げ出したくなるのは私ばかりではあるまい。おまけにパキスタン人同志の話し方が騒がしい事。まるでニワトリのケンカだ。シャーがバイユジャリラックス出来ないと言った意味が良く解った。昨日バトルム泊にしてくれたのはには感謝だ。私は今までのヒマラヤ行では、こんなメインストリートは初めてなのですっかりアキレてしまった。

6月25日(9日目) クブツェ 4000mへ

今日はいよいよ氷河に入る。ナジール事務所で出してくれたコース案内タイムがどうもはっきりしなくて、単純に時間を足すと11~12時間にもなりそうなのだが、そんな事は



あるまいと思っていたが終わってみれば12時間かかってフラフラになってしまった。前半は主にバルトロ河の右岸の道を河原へ降りたり登ったりを延々と繰り返しながら氷河の末端の壁を目指した。やはり氷河の上に立たないと本格的な山に入った気がしないので末端壁は励みになった。おまけに木村・長谷川隊が近づいているらしく、シャーと先方のガイドのメールが通じた。出来ればこちらが氷河の上に達してから会いたいものと、久方振りにハイな気分で末端壁はい上がり運よく、岩稜がいくらか小広くなった所でかれらと出会う事が出来た。

9日振りに思いつくままに日本語でしゃべって良い相手に会い、しかもそれが古い山仲間となれば興奮するのは70歳のジイさんでも同じで、わずかな時間だったがすっかり舞い上がってしまった。「これから長いよー」の木村さんの言葉を最後に別れ、再び氷河上のモレーンにルートに登ったり下ったり、そしていよいよ迫力を増して迫るトランゴタワーなどの岩峰群をカメラにおさめながら登ったが、それからが長かった。木村さんの「長いよー」は今日の事だったのか?等とシャーと冗談を交わしていたが、それからが本当に長く何回それらしい台地に登ってもキャンプ地らしい物が見えず、何回もだまされた末、前方のモレーンの上のオレンジ色のテントを見つけた時は心底ホットして残りの水に粉ジュースを入れて「カンパイ」と一気飲みするほどだった。時計を見ると12時間もかかってしまったが、アスコレでひっくりか

えった時のように病的なものではなかった。同じくフラフラになっても陽気なものだった。ディナーの時、今更だが今日



氷河末端壁付近

が何日なのかシャーと確認する。シャーは指を折って、私は日記帳をめくって、「エビハラさん時計で読んでよ」とシャー。「どうせ見えないんだから合せていないよ」とフテクサレルと私、「シャーはガイドなのに時計を持っていないのか?」に対して「1年に3回位しかガイドの仕事が無いから」とフテクサレル我がガイド。それでも何とかスケジュールはくるい無く、国内航空のゴタゴタで1日詰まってしまっていることを確認、コンコルディアでの自由行動の1日はないのだ。

6月26日(10日目) ウルドガス 4200mへ

朝、気がついたが、手の甲が大分腫れていて時計のバンドもきつくなっていた。高度4000m位でこうなったんだ。早々と高度の影響が出たのだ。腎臓あたりの機能が衰えてくるの



ムスターグ・タワー (7284m)

は70年も使っていれば当り前の事なんだから異常でも何でも無い。さあ登ろう。

今日の道程はそう長いものではないがサイドから合流してくる谷のモレーンの登り下りではずいぶん体力を奪われるし、時々急斜面で顔を出す氷のすべる事すべる事うっかりすれば氷河湖へドボンとなりかねない。しかしここまで来ると、上方の山のロケーションは大したもの、8000mオーバーのブロードピーク、そして難峰GIVが全身とはいえないがキャッチ出来た。昼にはウルドガスに着いて、テントに入ったが、陽の当たっている間は恐ろしく暑く、身の置き場も無かった。夕方に雲が出て急に涼しくなり、それを通り越して寒く感じる程になった。

6月27日(11日目) ゴロ2 4500mへ

くもりがちを通り越して、雨がちになって来てしまい、午前午後を通じて3時間ほど冷たい雨に降られたりしたので、この日めばしい写真はムスターグ・タワーもうんと近くを通り越したのに頂上付近は雲の中にボンヤリといった具合だった。そんな訳で、ただひたすら登っているんだか下っているんだか解らなくなるような数十mの凸凹を氷の斜面に上がりながら乗り越え乗り越え、またまた11時間もかかって到着した。ここは昨夜のウルドガスの幕営地のようにがけつぷちではないので、小キジ位はヘッドランプで何とか出来そう。ただ大分冷えて来たので服装は準冬山仕様になりテントが雨漏れするのでシュラフカバーも使い、ビニール袋を動員しアスコレの防水を行い、いよいよ本格的になって来た。

6月28日(12日目) コンコルディア 4700mへ

スカルドまでのドタバタで日程が短くなってしまったので、今日が最後の登りとなっている。空はクライマックスをむかえるに全くふさわしくなく、降ったり止んだりの1日だった。時々低い雲に包まれ、何の色彩も無い眼の前の岩と氷に向かうのは、何とも陰惨な感じで、とても行程の最高到達点に向うのと言う楽しさを感じられるものではなかった。遠くを見通せる機会もないので、廻りの大きい山と自分の位置関係が解りづらく、結局自分の登ったルートが、帰宅後の写真でなぞる事が出来ないほどだった。

それでも昼を過ぎて数時間の頑張り、眼の前の岩塔がなくなり、なんとなく自分が高い位置に上って来たなど感じて来た頃、小高いピークの上に白いドームの建っているのが見え、シャーが「軍隊の建物です」と教えてくれたので、これがパキスタン軍の最高点の駐屯地であり、私はコンコルディアの一角に登りついた事が解った。

シャーが建物に入り、多分登って来た事を報告したのだろうが、軍人が出て来て私と面接する。流石に最前線の兵だ。身体も顔も絞まって仲々ハンサムだ。まあ私の息子と言うより孫に近い年齢なのだが、かなりのびっくり眼で、「かなりお



K2 (8611m) 2010年8月撮

年のようですが、いくつですか？」と聞いて来た。

バイユ以来ヒゲを剃っていないし、多分顔もむくんでいると思うので、老けてみえるんだろうと思う。「70才」と答えると、ぶっとんでティーを運んで来るし、建物から5～6人もの兵士が飛び出して来て肩をもむやはられた手の甲をマッサージするやら、日本では絶対だれもやってくれっこない大サービスしてくれた。1週間ほど前に通った木村・長谷川隊の中にも私と同じような年齢の人も居たのに彼等はどいう若いふりをしたのか、若いころのキセルの癖で、ついシークレットスルーをしたのだろう。どっちにしてもそこでやや良い気分になり、それから30分程奥にあるキャンプに入った。でも天気は相変わらずで、いつでも上方は雲がべったりで、一昨日まであんなに見えていたブロードピークは裾の方だけ、K2はほとんど何も見えない。えーついてねーな。テントの向きを変えて寝転ろがってもK2方向がみえるようにして、暗くなるまでねばり抜いたが、ついにその姿を見る事は出来なかった。

6月29日(13日目) ゴレ1へ 下り

ポーターは先に出てもらい、私とシャーはそれから2時間K2の姿を見たくて待たがとうとうダメで、あきらめて下りにかかった。今日はゴレ1まで足を延ばすので早出をしたかったのに逆に遅出したので急がないとゴル1に着する前に暗くなってしまう。このだだっ広い氷河の中で暗くなるのはかなりヤバイ事になるので、昨日歓迎してくれた兵士達へは声をかけ、手を振るのみで見ることの出来なかったK2共々振り返りながらコンコルディアの肩から下りにかかった。今日も降ったり止んだりのモノクロの世界だ。少々ヤケクソ気味に足を速めたが、やはり道中は長かった。夕方も4時頃になるとあたりは大分暗くなり、雨も風も止む事もなく行動食もロクな物も残っていないし、とうとう日本に居るときから緊急用の1袋だけ財布に入れて持ち歩いていたブドウ糖まで口に放り込む始末だった。こんなになるほど犠牲を払ったのに、昨日も今日もK2の姿は見る事が出来なかった。それから4日間は、ほぼ登りの道中と変りの無いものだったが、やはり下りとなるとゆとりと油断のせいで、登りの時はしっかりと見る事が出来なかったピアホー河とバルトロ河の合流点の風景、そのはるか下流でのスカルドの近くでのインダス河との合流の風景等に感激しつつ記憶することが出来たり、バイユに下った日、馬が通る広い踏みあと道から石につまづいて3～4mも転げ落ち、またまた財布にたった1枚入れておいたバンドエイドのお世話になったりしたものだった。

7月5日(19日目) イスラマバードへ

帰路の国内便は運よく飛んだが、シャーのチケットは相変わらずゲット出来ない。彼はもうイスラマバードへは行かないと言う事なので、1人で機に乗ることとした。もう何か有ってもここからの機の行き先はイスラマバードだけなので、乗り違いが起きるハズは無いし、たとへ飛ばなくても、ナジール事務所のスカルド営業所の位置も、ホテルもしっかりと頭に入っているので、迷子になる心配もないので、アッサリと別れた。

イスラマバードではナジール事務所のマネージャーのスターンさんと、シャーの変りのガイドの出迎えを受け、その日の夕方には、先に下山し1週間程をフンザですごした木村・長谷川隊とに合流し、日本へ帰る便の時間待ちの1日半は、彼等の見学旅行にくついてすごしたのだった。

海老原 道夫

甲斐駒ヶ岳北坊主ノ沢 冬季単独初登攀

川内 盛雄

期日：1981年12月14～16日

12月14日

午前3時、星空の竹宇駒ヶ岳神社を出発。真暗い中、通いなれた黒戸尾根を、五合の小屋へと向かうが、一人で歩いていると、つい眠ってしまいそうに成り、なかなかペースが上がらない。しかし、闇の中より、八ヶ岳や奥秩父の山々が姿を現わし出すと、さすがに頭もさえ、元気も出て来る。五合の小屋では、黄蓮谷左俣を登ったJMCCのパーティに会い、氷のコンディションは、良好との情報をもらう。小屋の裏より、しっかりとしたトレースにしたがい千丈の岩小屋の脇を通り、黄蓮谷に下り立つ。ここまでは、ちょうど一年前、やはり単独で黄蓮谷左俣を登った時に、通った道である。トレースはなおも尾白川本谷出合通過し、尾白川をそのまま下っていた。尾白川出合いより、尾白川本谷の奥へは、トレースはなく、これから先は、文字通り薄氷を踏み進行となってしまった。それでも、午後2時30分ようやく北坊主ノ沢出合に着いたものの、なんとアプローチに11時間半もかかってしまった。これは、氷の登攀にそなえて、アプローチでは、アイゼンを履かなかつたせいかもしれない。しかし、時間はまだ早いので西坊主ノ沢の出合まで偵察に行く。西坊主ノ沢は、下部50メートルほどは、50度位の傾斜ではあるが、それから上は、まさに垂直な氷のビルディングと言った所で、とても単独で登れる代物ではない。今日は早々とビバークする事にして、北坊主ノ沢対岸の高台の樹林帯にツェルトを張り、北坊主ノ沢を充分に観察する事にした。

12月15日

7時30分出発。動物のトレースにしたがい、対岸に渡り、北坊主ノ沢に取り付く。それにしても、ずいぶん大きな足跡だ。まさか熊では・・・？ 今は冬だ。

ここから見上げる北坊主ノ沢は、滑状のF1が長々続き、核心部のF2は、小さく青白く見えるだけだ。薄氷の下を音を立てて流れる水に神経を使い、約40メートルでF1(120メートル)に取り付く。F1には、所々2～3メートル位の小垂壁があり、それをかわしたり、直登したりしてして快適に登って行くと、目の前のF2がしだいに大きくせまって来る。大きさ、傾斜共に、もうしぶん無く、写真でも所だが、ザックを下ろす所もなく、一気にF2の下まで登る事にする。ここから見上げるF2は、60～65度の傾斜が100メートル位続き、今までのこの沢を登ったパーティーは、全てこのF2をエスケープしており、F2はいまだ未登のままなのだ。ルート中、休める様な所は、一ヶ所もなく、登り出したら、一気に登りきってしまうしかない。単独ならなおさらの事だ。少しでも荷を軽くしようと思い、ザイルをひきずって登ることにする。しかし、ピレーは取らない。登るにしたがい、高度感も増々強くなり、出合まで一気に200メートル近く切れ落ち、目もくらむようだ。50メートル位登ると、上部より水が流れており、ひきずっている、ザイルが濡れてしまう。そのため、ザイルは氷に張り付いて、一歩登るたびに、意地悪く、私の体を引きもどそうとする。おまけにF1では、あまり感じられなかった風も、未登のF2を守るかの様に強く吹き始め、私のバランスを崩そうとしている。バランスを崩さない様に、強風に耐えていると、両足のアイゼンが、ミシンを踏み出した。このままでは、本当に落ちてしまう。必死になって、右手に持ったピッケルで、片足分のスタンスを切り、ケイレンし出したフクラハギの筋

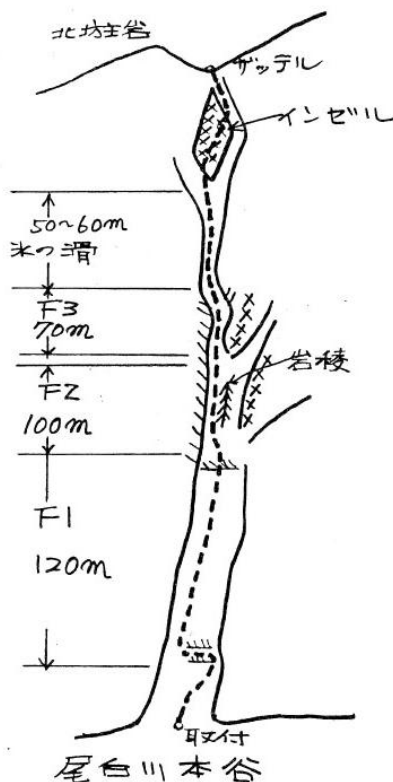
肉を、少しでも休める。以後、10メートル登っては、ピッケルでスタンスを切りながら、それを4回ほどくり返し、F2を登り切る事が出来た。本当に恐ろしかった。F2の上からF3までは、雪壁となっていた。腰を下ろして休みたい所だが、傾斜が強くなり、引き込まれそう。ザックを下ろし、ザイルをたたみ、一息入れる。F3(70メートル)は、いくぶん傾斜が落ちたねじれた様な氷瀑であるが、中間部で垂直の所があり、両手にぶらさがって登る。F3を過ぎてはまだ、氷の滑が50～60メートル続き、インゼル状の所にて、ようやく氷から解放された。そこから先は、たいしたラッセルにはならなかったが、疲れた体には、ザッテルまでがえらく長く感じられた。11時45分ザッテル着。タバコでも吸って、一休みしようと思ったが、あまりの強風のため、しかたなく坊主ノ沢を下降する。途中1ヶ所、25メートルの懸垂下降をして、坊主岩の一般ルートに入る。坊主ノ滝まで下った所で、当初の計画通り、黄蓮谷左俣に行こうかと迷ったが、F2でケイレンした両足のフクラハギでは、危険と思い、千丈の岩小屋でビバークする事にした。岩小屋着、午後2時45分。

12月16日(晴)

今日は、黒戸尾根を下るだけなので、のんびり岩小屋を出発。気持の良い、冬晴の中を横手のバス停へと向かった。

(朝霧50周年記念誌より)

〔北坊主ノ沢〕



1981年12月15日

川内 盛雄

川内 盛雄 山行記録

1977 年 (S52)

- 1/15~16 八ヶ岳 小同心クラック~大同心南稜
(山口、吉田、川内)
- 1/30 足尾 松木沢夏小屋沢 (山口、川内)
- 2/27 上越 足拍子山~荒沢山 (植田、鹿目、川内)
- 3/ 5~6 谷川岳 一ノ倉沢一ノ沢二ノ沢中間リッジ
(植田、鹿目、川内)
- 3/13 谷川岳 幽ノ沢滝沢~奥壁ルンゼ (植田、川内)
- 4/30~5 剣岳 小窓尾根~剣岳 (植田、鹿目、川内、渥美)
- 5/22 足尾 松木沢ウメコバ尾根右岩壁~中央岩峰
(山口、鹿目、川内)
- 7/2 谷川岳 幽ノ沢V字状岩壁右ルート (植田、川内)
- 7/23 谷川岳 一ノ倉沢南稜 (鹿目、川内、渥美、伊藤源)
- 7/24 谷川岳 一ノ倉沢中央奥壁本庄ルート (川内 他)
- 8/20~23 北アルプス 前穂高岳東壁右岩稜 (植田、川内)
- 9/10 谷川岳 南面ヒツゴー沢
(吉田、山中、鹿目、川内、小野、渥美、毛利、
中村、相沢、山口裕子)
- 9/18 谷川岳 南面幕岩C フェース洞穴ルート
(植田、川内、渥美)
- 9/23~25 南アルプス、北岳バットレスピラミッドフェース
~四尾根、中央稜 (川内、渥美)
- 10/2 谷川岳 幽ノ沢中央壁正面フェース
(鹿目、川内、渥美)
- 10/30 谷川岳 一ノ倉沢中央稜 (鹿目、川内)
- 11/3 谷川岳、一ノ倉沢烏帽子沢奥壁凹状岩壁ルート
(鹿目、川内)
- 11/20 谷川岳、一ノ倉沢烏帽子沢奥壁中央カンテ
(山口、川内、渥美)

1978 年 (S53)

- 7/ 9 谷川岳、一ノ倉沢衝立岩正面壁ダイレクトカンテ
(山口、川内、渥美、伊藤源)
- 9/23 上越、万太郎谷オタキノ沢 (山口、川内、佐々木)

1979 年 (S54)

- 4/15 足尾 松木沢ウメコバ沢中央岩峰右ルート
(山口、川内、小島)
- 5/19~23 北アルプス、北穂高岳滝谷第一尾根 松涛岩ドーム
西壁北西カンテ (山口、鹿目、川内)
- 6/10 谷川岳 幽ノ沢左俣中央ルンゼ (山口、川内、渥美)
- 6/16~17 足尾 松木沢ウメコバ沢右岩壁燕ハング 中央岩
峰凹角ルート (山口、川内、渥美)
- 9/9 谷川岳 一ノ倉沢衝立岩正面壁雲稜第一ルート
(山口、川内)
- 9/15~16 上越 赤谷川笹穴沢 (海老原道夫、政夫
西原、吉田、山口、川内、渥美、小島)
- 9/21~23 黒部 奥鐘山西壁京都ルート (山口、川内)
- 11/17 谷川岳 一ノ倉沢南稜アイゼン登攀 (山口 川内)
- 12/15~17 南ア 甲斐駒ヶ岳黄蓮谷左俣大滝下~遭難者
収容 (山口、川内)
- 12/30~1/5 北ア 南岳西尾根~槍ヶ岳 (鹿目、海老原道夫、
政夫、山中、西原、川内、渥美、井上、小島、遠藤、小山、森安
山口秀、裕子)

1980 年 (S55)

- 1/20 足尾、松木沢黒沢 (山口、川内)
- 2/16~17 谷川岳 一ノ倉沢滝沢右稜偵察
(山口、川内、渥美)
- 3/2 谷川岳 一ノ倉沢一ノ沢右壁左方ルンゼ
(山口、川内、渥美)
- 3/9 谷川岳 一ノ倉沢南稜 (山口、川内)
- 3/16 谷川岳 一ノ倉沢滝沢第三スラブ敗退~衝立沢
αルンゼ敗退 (山口、川内)
- 3/20 谷川岳、一ノ倉沢一ノ沢~東尾根
(植田、海老原政夫、吉田、山口、川内、遠藤、渥美、小山)
- 4/6 足尾、松木沢ウメコバ沢右岩壁ツバメハング
中央岩峰凹角 (山口、川内、渥美、遠藤、小山)
- 6/29 足尾 松木沢ウメコバ沢左岩壁 (山口、川内)
- 8/10 足尾 松木沢ウメコバ沢中央岩峰朝霧ルート
開拓 (山口、川内、渥美、小林、小山)
- 8/13~1 南ア 大武川~赤石沢奥壁前衛壁ダイヤモンド
フランケAフェース白稜 (山口、川内)

1981 年 (S56)

- 1/8~10 足尾 松木沢ウメコバ沢 (山口、川内)
- 3/21~22 谷川岳 幽ノ沢中尾根 (植田、山口、川内、小島雄、
渥美、小林)
- 5/23 谷川岳 一ノ倉沢烏帽子沢奥壁凹状岩壁~コッ
プ状岩壁左岩壁~一ノ倉岳 (山口、川内)
- 5/30 谷川岳、一ノ倉沢烏帽子沢奥壁中央カンテ
(山口、川内)
- 9/16~18 南ア 甲斐駒ヶ岳赤石沢奥壁左ルンゼ・摩利支
天中央壁独標~ジェドールルート
(山口、川内、田村)
- 9/23 谷川岳 一ノ倉沢二ノ沢右壁 (山口、川内)
- 10/ 3~ 4 南ア 北岳バットレス ピラミッドフェース~
下部フランケ~上部フランケ~中央稜直上ルート
(山口、川内)
- 10/11 足尾 松木沢ウメコバ沢左岩壁 (植田、山口、川内)
- 12/27~31 南ア 甲斐駒ヶ岳尾白川滑滝沢~黄蓮谷左俣
(山口、川内、田村)

1982 年 (S57)

- 6/5~7 奥秩父 瑞牆山 十一面翼ルート・春一番~微笑
み返し・小川山スラブ状岩壁 (山口、川内、小島雄)
- 7/14 那須 阿武隈川白水沢 (山口、川内、吉田、井上
夫妻、森、越前屋、小関、伊藤源、村上)
- 8/13~17 剣岳 源治郎尾根一峰平蔵谷下部中谷ルート・
同上部成城大ルート・八ツ峰六峰D フェース久留
米大ルート・剣尾根R4~剣尾根・チンネ魚津高
~hクラックダイレクトルート~剣岳往復
(山口、川内、村上)
- 8/2 谷川岳 一ノ倉沢中央稜~コップ状岩壁緑ルート
敗退 (山口単独)
- 8/22 谷川岳 一ノ倉沢南稜 (川内単独)
- 9/23~25 北ア 明星山P6 南壁左岩稜・直上ルート2ピッチ
迄 (山口、川内)

1986 年 (S61)

- 10/5 上越、白毛門沢 (山口、川内夫妻)

※ゲレンデ、講習会は除く (山口 秀男編)

思い出の記録 2

1976 (S51 川内 22 歳) 1/5~9 ハケ岳、横岳西壁ショルダー左リッジ・中山尾根 (山口、川内、鈴木利、村島)

東京朝霧山岳会のカラコルム遠征の正月合宿が甲斐駒ヶ岳集中で行われたが、川内は新人で鳳凰三山から縦走してきた。物足りなかった私は川内と 40kg の荷物を背負い赤岳鉱泉に入り、吹雪の中 4 名で登ったのが川内と初めての登攀だった。

1977 (S52) 3/19~21 谷川岳、一ノ倉沢滝沢リッジ (植田、山口、川内)

逆層のスラブから長い長い灌木帯を登って岩稜になる。二日目、岩稜を右から人口で登る時、川内が転落する。すぐ止めたが、川内は指をカラビナに挟まり骨折する。それ以降、手首にユマールを取り付け、片手ピッケルで長いスノーリッジを根性で登りドーム基部で二泊目。翌日、A ルンゼには植田さんが懸垂ではなくトラバース気味クライムダウンして降りた。35 ピッチの三日間だった。

1978 (S53) 12/29~1/10 剣岳、小窓尾根~剣岳~早月尾根下降 (植田、吉田、山口、鹿目、川内、渥美)

13 日間の間、初日雨、二日目、食器(おわん)を落としそれ以降、蓋で回し食い。晴れたのは半日だけだったが思い出深い山行だった。

1978 (S53) 3/12~13 谷川岳 一ノ倉沢一ノ倉尾根 (山口、川内、渥美)

吹雪の中の登山。初日、17:00 に一ノ倉岳着。ここから猛吹雪の中進み歩き続け、雪庇と空との見分けがつかないまま、最後はザイル二本連結して山口が進み肩の小屋を探してようやく 21:00 着。二人共よく頑張った。稜線でバテたら生きて帰れない事を三人で実感する。翌日、西黒沢を降りた。川内ともこの後は殆どザイルを組むようになる。この年から川内とザイルを組むことが多くなった。

1979 (S54) 5/19~23 北ア 北穂高岳滝谷 第一尾根・ドーム西壁 (山口、鹿目、川内)

北穂高岳頂上を 06 時 30 分に出る。08:40 分登攀開始。壁一面真っ白と言うよりエビの尻尾状態。ホールド、スタンスも全て落とさないと前進できない。T2 迄 6 ピッチで 10 時間経過してしまう。残り 4 ピッチ登って北穂高岳に着いたのは 21:25 分。14 時間の登攀だった。

1979 (S54) 9/21~23 黒部 奥鐘山西壁京都ルート (山口、川内)

9/21 樺平駅から黒部川に降り股下までの渡渉を繰り返す。奥鐘山西壁の対岸の岩小屋には 9 時 50 分に着く。装備を装着して京都ルートの取付きにチロリアンブリッジで黒部川を渡る。取付 11:30。2 ピッチで 5m の第 1 ハング。空身で登りセカンドが荷押ししながら登る。垂壁は全て最上段。第 2 ハングを越えるとブッシュラインのビバーク地 6 ピッチ。17:20 この日は着氷、登攀クラブ京都、OCC、RCC、他の 17 名がこの西壁に取付いていた。

9/22 05:30 開始。人工、フリーと続き第 3 ハングは 7m、続いて第 4 ハングとどれもスケールのでかいハングが続く。上部はスラブフリーを交えて登り第 5 ハングを越して終了する。合計 12 時間半。13 ピッチ。下降も同ルートで、ハング

では支点からから 4.5m 離れてしまうので身体をそらして反動付けないと掛け替えができずまた、下降支点でザイルを離してしまい投げ縄で回収できたりと楽しかった。16:30 分に下降終了する。13 ピッチ 12 時間半。懸垂 2 時間。

9/23 雨で明け方、岩小屋に増水してきてすぐ撤退する。志合谷の水平歩道まで登るのが億劫でザイルを付けて黒部川を泳いで下り事なきを得る。

1980 (S55) 5/27~5/31 北ア、北穂高岳滝谷、第二尾根 P2 フランケ芝工大~グレポン芳野、ダイヤモンドフェース清水山岳会~ドーム中央稜 (山口、川内、遠藤)

今は亡き姉さんと川内とはよくあちこち良く登りました。本当にお姉さんのような女性でした。今頃はあっちでもザイル組んでるんじゃないかな？

1980 (S55) 8/13~8/17 南ア、大武川~赤石沢奥壁前衛壁ダイヤモンドフランケ A フェース白稜 (山口、川内)

大武川林道から二ノ沢出合~赤薙ノ滝~赤石沢~赤石沢奥壁 A バンドの岩小屋には 16:30 に着いた。

翌日、白い花崗岩のダイヤモンドフェース白稜ルートに取く。下部の垂壁の連続でアプミは絶えず最上段の乗る。後続の背の低い方から「ボルトのリングを上げないでください」と懇願される。大ジェドルからには 10m の振り子トラバース、懸垂ありであって楽しかった。

1980 (S55) 12/28~1/6 北ア 屏風岩東壁青白ハング下部蒼稜~上部鵬翔ルート~北尾根~慶応尾根下降 (山口、川内)

計画では屏風岩(川内トップ)~前穂高岳 4 峰(山口)~滝谷(渥美)~硫黄尾根下降であったが S56 年豪雪で屏風岩のみの結果となる。12/28 沢渡~横尾 吹雪 11 時間半。12/29 吹雪停滞 12/30 曇 横尾~T4 8 時間半

12/31 曇り T4~大テラス 1/1 晴れ大テラス~鵬翔ルート終了点 14 時間半 1/2 降雪 終了点~北尾根最低コル 6 時間。デボ食料大部分食べられていた。1/3 降雪 最低コル~八峰 4 時間。腰までのラッセルで 2 回目の大雪警報出る。1/4 降雪 -23℃ 1/5 八峰~上高地 6 時間 45 分 1/6 上高地~沢渡 3 時間 20 分。

1981 (S56) 9/13~18 南ア、甲斐駒ヶ岳赤石沢奥壁左ルンゼ摩利支天中央壁独標~ジェドルルート (山口、川内、田村)

田村と赤石沢奥壁前衛壁ダイヤモンドフランケ A フェース赤蜘蛛とダイヤモンドフランケ B フェースを登り、川内と合流して奥壁左ルンゼを登る。奥壁の真ん中を切れ落ちている。フェース、クラック、チムニーと変化に富んで楽しいルートだった。翌日は摩利支天中央壁を登り充実した日々だった。

1981 (S56) 10/3~4 南ア、北岳バットレス ピラミッドフェース~下部フランケ~上部フランケ~中央稜直上ルート (山口、川内)

計画では「1day で広河原から登ろう」という計画であった。正月に屏風岩、夏は衝立岩、二ノ沢右壁、秋にダイヤモンドフランケ~奥壁ルンゼと登り込んでたのでどのルートも、技術的な難しさは無く最後の中央稜もノーマルルートではつま

らないのでリンネを直上した。26ピッチ。8時間30分。頂上から肩の小屋～御池小屋でツエルトを張る。軽量化で防寒着も無く寝袋もなく寒い一晩だった。

1981 (S56) 12/27～31 南ア、甲斐駒ヶ岳尾白川滑滝沢～黄連谷左俣 (川内、山口、田村)

川内立案の合宿。12/26 竹宇神社 12/27 千丈の岩小屋
12/28 滑滝沢下部 12/29 滑滝沢水瀑取付 07:50、8ピッチ
終了12:00 ザッテル14:30 千丈岩小屋16:50 12/30 黄連谷左俣～五合目小屋15:30 滑滝沢は技術的に難しさはないが上部でスリップしたら1,000m近く滑落するので致命的である。

1982 (S57) 8/7～13 剣岳、源治郎尾根一峰平蔵谷下部中谷ルート・同上部成城大ルート・ハツ峰六峰D フェース久留米大ルート・剣尾根R4～剣尾根・チンネ魚津高～h クラックダイレクトルート～剣岳往復 (川内、山口、村上)

「剣岳に登ろうぜ」と入山。毎日天気良く剣岳を満喫して7本登る。Hクラックダイレクトが面白かった。

後記：この次週、川内は一ノ倉沢南陵、私は中央稜左ルートでソロで登るが二人共絶対の自信があったので登れた。9月後半、川内と明星山南壁を登った時、川内から結婚するのでザイルを置く事を告げられ、その後川内とは本格的な登攀をすることはなくなった。

(山口 秀男)



谷川岳 マチガ沢東尾根末端 ～ 一ノ倉沢 ～ 幽ノ沢

当会の遭難について 前野 忠保

会が発展し、より高度な技術を必要とする場合、事故が起きる危険をさける事が出来なくなり、負傷者ですむ場合ならまだしも死亡となると家族の悲しみは大変なものです。入会以来の死亡事故3件について、其の時々を事情を、私が知ることが出来たことを率直に書いてみました。

昭和33年11月23日

三ツ峠 地藏ルート (当時会長 夏井 建之氏)

横田君とは友人であり、私達は子供の時よりの親友でありました。彼は一人っ子で、2人でよく丹沢周辺の沢を登り、会へさそったのも私でした。遭難する1週間位前に私の家に来て、三ツ峠の岩登りに行くと言うので止めましたが、「今回はぜひ行きたい。又、借りた金を返す。」と金を出したので、未だ給料日でもないのに変に思って、金の出所を聞いたら、「カメラを売った金だ」と置いて行きました。又、私が三ツ峠行を止めたのは、彼の両親の事を考えての事でしたが、彼の技術であれば、まさか墜死するとは思っても見ませんでした。現場には、会員の皆様が多数出動して下さい、友人として今もありがたく思っています。一人っ子でもあり、両親の事を思うと、今後会員の死亡事故を、出来るだけ避けなければならないと、自分なりに考える様になりました。後日、天狗の踊場に遭難碑を全員で立てました。

昭和34年8月23日

谷川岳幕岩Aフェース(当時会長 前野忠保)

当時岩登りが多くなり、私としても若し事故が起きた時のリーダーの責任問題等を心配して、無断山行、又、他会の人との岩登りを禁止し、其の様な時は会では責任を持たないと、会則に入れました。しかし、この会則を無視して、山中(貞)、徳蔵の両君は、旧会員の原田 輝一君のさそいで、幕岩に行ったと思われまふ。技術からして、原田君がリーダーだったのではないのでしょうか。遭難してのではないかと云って来ましたが、何処へ行ったのか分からない様な始末でした。其の内、会員の中から、「谷川岳の南面に行ったらしい。」と言う者があり、やっと幕岩である事がわかり、この時は全員死亡で、原因其の他の事は全然わかりませんでした。この時私は現場へ行くべきか、会則を無視しての山行なので、遭難救助には行くべきでないのか迷いましたが、私は会長として後者を取りました。会員には山の友達としてぜひ行ってくれる様にたのみました。又、行けない者は、救助に行った会員の電話連絡の為、私の家に来てくれました。またこの時、他山岳会に大変御迷惑をかけた事、心より御礼申し上げます。後日、ある会員より現場に行かなかった事で非難されましたが、一般会員なら別として、会長が会則を無視した者の救助にはいけないと云いました。一周忌に、南面二俣に、遭難碑のかわりに、銅板を埋めこみました。

昭和41年3月

白馬岳 (当時会長 田中 義雄)

この時は私は仕事の都合であまり山行もせず、会の集会にも出席する事も少なくなり、急に白馬で遭難があり、会長の田中君以下会員多数が救助に行ったと連絡がありました。星君がリーダーで、同行者は大久保、鈴木両君との事でした。救助隊が行った時は、大久保、鈴木両君はすでに凍死していたとの事でした。現地に鈴木君の家族が行って居り、「自分の息子は殺された。」と、其の言動が、皆の気持を非常に悪化させた様で

す。つかれている会員荷は気の毒でした。救助隊の新宿到着時間の連絡があり、私と佐藤 忠幸君が出迎えに行くと、今夜が鈴木君の通夜だと云われ、皆に行ってくれる様頼みましたが、現地のことがあり行く事は無いとの事。無理もないと思いますが、それでは私と佐藤君が行くから代表として一人行ってくれる様頼みました。それではと、全員行ってくれる事になり、鈴木君の家へ行きました、家族の方も冷静になって居り、何事もなく通夜を終えて帰りました。其の後、家族よりリーダーの責任を追及する様な事があり、会事務所で説明し、やっと納得いただいた様です。大久保君の方は、兄さんが、遺骨を、田舎に持って帰りました。

後日、星君の姉さんより、一周忌に、鈴木君の家へ行ってはどうか、と、相談の電話がありました。当時の事を考え、お寺にお参りすれば良いのではないかと、返事をしました。

以上、遭難当時の事情を書きましたが、会員の中には違う考えを持って居る者もあると思います。しかし、親しい岳友または会の責任者は心にくる出来事です。

(朝霧50周年記念誌より)



2/1 山岳保険加入の件 庶務2課

山岳保険(jRO 共済保険、傷害保険)を下記の要領で加入して下さい。

- 1, 保険料 ¥8,000～¥10,000 (詳細額は総会2/4のとき)
- 2, 山岳保険の詳細約款は、総会・集会時説明します。
- 3, 保険料の借り払いはしません。
- 4, 新入会員、未加入者は総会・集会にて、山岳保険の詳細説明をします。
- 5, 基本全員加入です。(万一、未加入で事故ったり、ロクッタ場合、当会で責任は持ちませんのでその点宜しくお願いします。)
- 6, ご不明な点は、庶務2課へ

2/3 朝霧OB会新年会・朝霧現役新年会

朝霧OB会新年会と朝霧現役新年会が、それぞれが平井「とん一」と、朝霧山荘で開催されました。18時から深夜2時までの長丁場でした。

5/15 「第9回朝友高尾山ハイク」

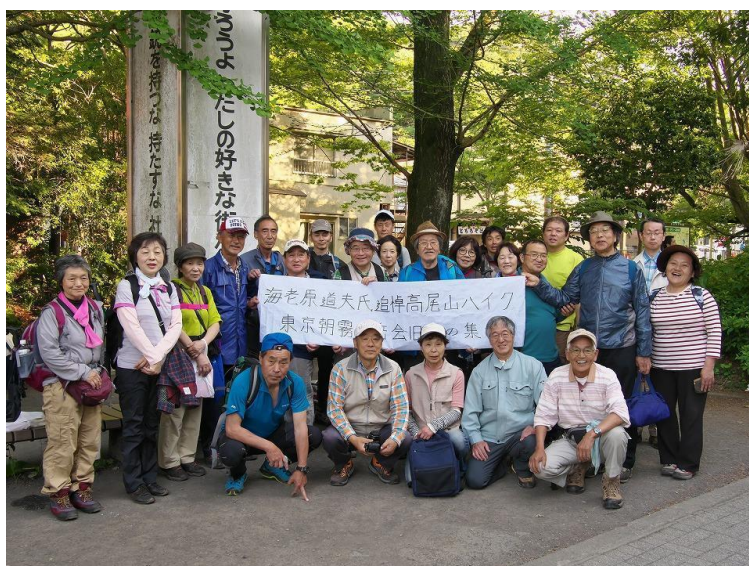
ご無沙汰致しております。岳兄各位に措かれましては、ご健勝のこととご推察申し上げます。春先の花見も終盤となり、恒例の「朝友ハイク」の時季も近づいて参りました。さて、今年も好評を戴いております「高尾山での昼食会」を、計画したいと考えます。

日時：5月20日(日曜日)

集合：「京王線 高尾山口駅前」改札を出た広場の左側。午前10:00 (遅刻者は頂上直下北広場・飲会合流も可)

世話人宛に参加要請、頂くようお願い致します。また、皆様の知人や朝霧旧友にもお声掛け頂き、お誘い合わせ頂くようお願い申し上げます。「朝霧旧友の集い・第9回朝友高尾山ハイク」実行委員会一同

5/15 現在33名参加!



周防大島 家房 二歳児 行方不明発見(番外編)

誠に申し訳けありません番外にて失礼します。皆様も御承知のことかと思えます。一躍「周防大島」も「すおうおおしま」と読むのも幸か不幸か世間に知れました。実はこの「家房(かぼう)」はこの島で一番高い山「喜納山」を登頂し下山するのに源明山経由ですとまさに瀬戸内海に向けて「海」を遠望しつつ家房に降りるのをこよなく愛する者として今回の行方不明発見そして無事生還に心して喜ぶ、だらしない一登山者です。当初は 林は竹林の密生なので「空家・廃屋」にかと思いましたが、または近所のご老人宅(高齢者限界集落)とも！という地域です。テレビ画像で歩いたことのある道や景色なのです。私はこの道を4回利用させていただき亡き友人宅「日見」へー(伊藤)

11/1 【番外編】 日本で一番有名な「島！」

毎年今頃行く場所、今年は多分日本で一番有名な「島！」になってしまいました。8月2才児行方不明そして発見、10月大阪警察署脱走逃亡先に本島を立ち寄り世間を賑わし、落ち着いた直後大型タンカー橋衝突！「予想だにしないことが起こりました」まさにこの島にとって「当たり」年になってしまいました。来年はまた普段の静かな「周防大島」になってください。



マッシュブルム(7821m)

海老原 道夫 撮影 2011、6-7

山行報告 2018 東京朝霧山岳会

発行所

〒132-0035 東京都江戸川区平井 6-7-5

朝霧山荘内 東京朝霧山岳会

発行日 2019年3月31日 3校 1版

編集者 山行報告2018編集委員会

参考資料

【公式】東京朝霧山岳会 HP

<https://asagirisangakukai.jimdo.com/>

朝霧ブログ(東京朝霧山岳会活動!)

<https://asagiri33.hatenadiary.jp/>

朝霧旧友のつどい

<http://asagiri-kyuyunotsudo.net/>

旧朝霧ブログ (東京朝霧山岳会活動!)

<http://d.hatena.ne.jp/asagiri33/>

前野 忠保(原稿)、海老原 道夫(原稿・画像)、川内 盛雄(原稿・画像)、
植田 宗男(原稿・画像)、吉田 英樹(原稿・画像)、山口 秀男(原稿・画像)、井上 弘(原稿・画像)、
木戸 伸一(原稿)、黒澤 祐一(原稿・画像)、梶 大輔(原稿・画像)、伊藤 守(画像・原稿・校正)

東京朝霧山岳会

検索